

年 報 39

2022年度
(令和4年度)

2023.11

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、2022（令和4）年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査等の調査研究業務及び史跡の保存・活用及び埋蔵文化財の活用等に係る概要を報告するものです。

昨年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るために、適切な感染防止対策を徹底した上で、各業務に取り組みました。

調査研究課では、リニア中央新幹線や新山梨環状道路などの開発に伴う発掘調査を二又第1遺跡（中央市）、下向遺跡（笛吹市）、御陣屋遺跡（市川三郷町）、新町前遺跡（市川三郷町）、甲府城下町遺跡（甲府市）、小井川遺跡（中央市）、池田神明遺跡（笛吹市）、上窪遺跡（中央市）、西下条五割遺跡（甲府市）の9箇所で実施しました。

主な調査成果として、二又第1遺跡では漆で四角く囲まれた屋敷跡と、屋敷地内で石組みの井戸や人骨を伴う墓が見つかりました。それぞれの屋敷内で完結した生活をしていたことが伺え、中央市域における中世の生活を考える上で重要な資料になりました。下向遺跡では、崩落した状態の石垣や、その周辺からは祭祀に使用されたと考えられる柱状高台や脚高台などが見つかっており、信仰に関連する構造であることが考えられます。御陣屋遺跡では、近代の製糸業で使用される繭糸鍋や集器器などが発見されました。また、江戸時代後期の地鎮祭跡や中世の遺物も見つかっており、中世から続く人々の営みが確認できました。池田神明遺跡では、中世のかわらけなどが出土する地層の底面から烟の灰が発見されました。また地層の観察から、度重なる洪水の跡と、その洪水の中に繰り返し煙や水田が造られた様子がわかりました。上窪遺跡では、検出した各面においていずれも灾害（復旧）の痕跡を見ることができ、この地域における災害の歴史を知る上で貴重な資料となりました。甲府城下町遺跡では、江戸時代から明治時代以降の陶磁器、古銭、木製品などが発見されました。

開発工事に伴う県内遺跡分布調査では、遺跡の有無や工事の影響を確認するための試掘調査を34件実施しました。

また、発掘調査の成果を公開するため、下向遺跡、新町前遺跡、二又第1遺跡、史跡甲府城跡、池田神明遺跡において現地説明会を開催しました。二又第1遺跡では発掘体験セミナーを行い、地域の歴史に興味・関心のある多くの方にご参加いただきました。

史跡資料活用課では、史跡甲府城跡の整備に伴い、内堀の確認調査を行いました。今回の調査では、石垣の根石下に敷かれた胴木や、それに直行する方向に設置された木材、礫を入れた地盤改良など、地盤の悪い場所に石垣を造るための工夫が確認されました。また、史跡甲府城跡に隣接する石切場調査の一環で、愛宕山石切場跡と大沢採石跡の調査を行いました。愛宕山石切場跡からは近代と考えられる土坑や時期不明の溝を検出し、大沢採石跡では、矢穴列の見られる礫岩を複数確認しました。継続的に実施している史跡甲府城跡の石垣維持管理事業も実施し、史跡を後世に残すために取り組みを行いました。

また、銚子塚古墳・丸山塚古墳、甲府城跡などの史跡や各遺跡の出土品を活用したイベントや講座、教育現場への出前支援事業などを実施し、埋蔵文化財に親しむ機会を提供しました。さらに、文化財を活用して観光を促進するため、静岡県と連携し、両県の埋蔵文化財を一同に集めた展示やワークショップなどを行う「ふじのくに山梨・静岡文化財交流事業」を開催しました。

こうした取り組みにより、子どもから大人まで多くの方々に埋蔵文化財の魅力を伝えることができました。

当センターでは今後も、埋蔵文化財の調査研究、史跡資料の保存活用、また、それらに係る情報の発信、学校教育や生涯学習の場を通じた普及活動等に取り組んで参りますので、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

2023年11月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 北村 勝

目 次

序文

凡例・2022年度発掘調査等遺跡位置図・職員組織

第Ⅰ章 調査研究業務

発掘調査等

1 記録保存のための発掘調査	3
2 県内分布調査（国庫補助事業）	21
3 発掘調査に係る統計	46
4 発掘調査環境整備	47

第Ⅱ章 史跡資料活用業務

山梨が誇る出土品活用促進事業 ふるさと山梨文化財歴史発見事業（国庫補助事業）

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業	50
2 散策マップ作成とウォーキングイベント	52
3 教育現場への支援事業	54
4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等	55

山の洲山梨・静岡・長野文化財交流事業（地方創生推進交付金事業）

1 出張展示・体験イベント	58
整備事業に伴う調査	
1 整備事業に伴う調査	60
その他事業	
1 その他事業	64

第Ⅲ章 県内の概況

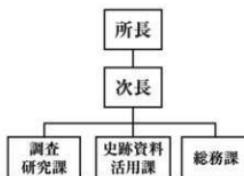
1 届出件数と内容	74
2 発掘調査	74
3 県・国指定有形文化財（考古資料）及び県・国指定史跡	74
4 発掘調査の成果と保存整備事業	74
5 発掘調査体制	75

凡 例

2022年度 発掘調査等遺跡位置図

- 本書は、2022年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 右記の地図は、2022年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、9、10頁の発掘調査の表に対応している。

2022（令和4）年度 組織図・職員組織



所長	西川秀之
次長（兼）	保坂和博
総務課長（兼）	保坂和博
調査研究課長	宮里学
史跡資料活用課長	小林健二

総務課	
副主査	塙谷慎司
専門員	塙脇亮一
主事	市橋愛花
会計年度任用職員	菅野友紀
会計年度任用職員	原未帆

調査研究課	
主査・文化財主事	正木季洋
副主査・文化財主事	數野優
主任・文化財主事	久保田健太郎
主任・文化財主事	上野桜
主任・文化財主事	御山亮済
主任・文化財主事	小高鉄平
専門員	高野玄明
文化財主事	岩永祐貴
文化財主事	内田祥一
会計年度任用職員	佐藤孝志
会計年度任用職員	田中一仁
会計年度任用職員	桐部夏帆
会計年度任用職員	深沢鉄朗
会計年度任用職員	秋山浩文
会計年度任用職員	秋山富喜雄

史跡資料活用課	
副主幹・文化財主事	野代恵子
主査・文化財主事	金子誠司
文化財主事	佐賀桃子
文化財主事	中村有希
文化財主事	高左右裕
文化財主事	渡邊みづか
会計年度任用職員	小池準一
会計年度任用職員	小野祐子
会計年度任用職員	一之瀬はる奈

第Ⅰ章 調査研究業務

発掘調査等

I 記録保存のための発掘調査

番号	調査名 他
1・1	二又第1遺跡
1・2	下向遺跡
1・3	御陣屋遺跡
1・4	新町前遺跡
1・5	甲府城下町遺跡
1・6	小井川遺跡
1・7	池田神明遺跡
1・8	上庄遺跡
1・9	西下条五削遺跡

2 県内分布調査(国庫補助事業)

番号	調査名 地
2・1	史跡甲府城跡開進石切場跡詳細分布調査
番号	事業名 他
2・2・1	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事
2・2・2	新山梨県状道路東部区間定期建設事業
2・2・3	中央新幹線都留保守基地建設工事
2・2・4	甲府警察署甲府駅前交番改築工事
2・2・5	富士技術支援センターイノベーション支援棟（仮称）建設工事
2・2・6	国道411号和戸アクセス道路建設工事
2・2・7	大泉駐在所改築工事
2・2・8	県立青少年センター運動場芝生整備事業
2・2・9	一般国道138号新屋敷幅工事
2・2・10	急傾斜地崩落対策工事
2・2・11	一般国道358号遠光寺北交差点改良事業
2・2・12	切石地区築堤護岸工事
2・2・13	道の駅笛子川町駐車場整備事業
2・2・14	甲府市中央右左口線1号線アクセス道路建設工事
2・2・15	国道52号上石道道路改良事業
2・2・16	濁川流域グラウンド貯留施設工事
2・2・17	舞鶴城公園植栽事業
2・2・18	曾根丘公園照明設備改修工事
2・2・19	甲府警察署甲府駅前交番改築工事
2・2・20	県庁噴水広場芝生化工事
2・2・21	苗吹高校農場防犯灯改修工事
2・2・22	苗吹高校農場止水弁バルブ取替工事
2・2・23	釜無川スポーツ公園改修整備工事
2・2・24	産業技術センター高度技術開発棟他解体工事
2・2・25	県立青少年センター運動場芝生整備事業
2・2・26	釜無川スポーツ公園改修整備工事
2・2・27	史跡甲府城跡敷地層曲輪塗喰附控え木改修工事
2・2・28	県庁舎別館バスポートセンター改修工事
2・2・29	御動使南公園施設改修工事（水飲み場）
2・2・30	桂川流域下水道桂川2号線2条北建設工事

2 - 2 - 31	緑ヶ丘スポーツ公園屋外分煙施設工事	立会
2 - 2 - 32	釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事	立会
2 - 2 - 33	風土記の丘曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事	立会
2 - 2 - 34	市川大門郵便局建設工事	立会

整理作業

番号	遺跡名	内容
1	二又第1遺跡	基礎的整理
2	昆沙門遺跡	基礎的整理
3	深町遺跡・甲府城下町遺跡（R3年度調査）	基礎的整理
4	甲府城下町遺跡	基礎的整理
5	御陣屋遺跡	基礎的整理 本格的整理
6	小井川遺跡	基礎的整理 本格的整理
7	北畠南遺跡	本格的整理
8	二又第2遺跡	本格的整理
9	美通遺跡	本格的整理
10	新町前遺跡	基礎的整理 本格的整理

報告書刊行一覧

番号	報告書名
第337集	山影遺跡（一般国道141号電線共同溝工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）
第338集	美通遺跡（一般河川朝日川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）
第339集	二又第2遺跡（中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）
第340集	山梨県内分布調査報告書（令和3年4月～令和4年3月）
第341集	御陣屋遺跡（市川大門郵便局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）

3 発掘調査に係る統計

番号	遺跡名
3 - 1	記録保存のための発掘調査
3 - 2	県内遺跡分布調査

4 発掘調査環境整備

番号	遺跡名
4 - 1	労働安全衛生教育講習
4 - 2	発掘調査体制と労働安全の整備

1 記録保存のための発掘調査

1-1 二又第1遺跡

所在地 中央市成島地内

事業名 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事

調査期間 2022年4月18日～10月31日

調査面積 約5,000m²

担当者 御山亮済・小高鉄平・桐部夏帆

当事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴い、記録保存を目的として実施した二又第1遺跡（C区）の発掘調査である。本調査は、事業地内で保護措置を必要とする2遺跡（二又第1遺跡・二又第2遺跡）の計約32,000m²のうち約5,000m²を対象とした。既

実施の二又第1遺跡（A区）の調査については、「年報37」及び「年報38」に調査概要を報告しているので、合わせて参照されたい。周辺環境 本遺跡は、釜無川支流である神明川の右岸に位置する村落遺跡である。この地域は、広域には釜無川の氾濫原に当たり、周辺の道路分布はやや希薄である。現状の周知の埋蔵文化財・古墳・石碑等の分布を見ると、中世以降の遺跡が多く、それ以前の時代の遺跡は皆無に近い。周辺の地形環境から分厚い河川堆積が想定され、中世以前の遺構が地下深くに埋没している可能性もあるが、本地域の人の活動が活発になるのは、中世以降であると考えられる。周辺の地形環境及び歴史的環境については、「年報37」及び「年報38」に記述したので参照されたい。

発見した遺構と遺物 2020年度～2021年度に実施したA区の調査では、最大幅5mに及ぶ大溝を伴う村落跡が見つかっている。今回調査（C区）では、A区と同様に掘立柱建物の柱穴跡や溝等が多数見つかっており、村落が東側に展開していることが明らかになった。

今回調査では、矩形に配される溝により区画された空間が4箇所見つかった。その内側に掘立柱建物や石組み井戸、墓などの遺構が集中しており、溝により区画された屋敷地と考えられる。北西の屋敷区画は、東西17.5m以上×南北約33.5mの区画である。区画の西端は調査区外。区画の中央部と南東隅にピットが集中して分布していることから、掘立柱建物は少なくとも2棟建っていたものと想定される。また、中央部の建物内には土間と思われる硬化面があり、建物規模は、中央部の建物は東西3間以上×南北5間程度の建物と想定され、主屋になる可能性がある。一方、南東部の建物は東西3間×南北1間程度の小規模な建物である。主屋と想定される中央建物の東側では、石組み井戸（SE02）を検出した。SE02の石組み上部の東側には、方形に石を配した洗い場状遺構が付属しており、さらに東側では不整円形の溜池状遺構が付属して、区画溝に連結している。これらの遺構は、井戸から流下するような段構造を呈していることから一体の構造物と想定され、水利に関連する遺構群と考えられる。また、この南東部の建物の南側には、4基の人骨を伴う屋敷墓が等間隔に東西に配されている。この他の区画に目を向けると、同様に掘立柱建物の柱穴や石組み井戸、墓のセットが各区画に認められる。このことから、それぞれの区画が個別の生活単位を有していると想定されるため、溝で区画された屋敷地が集まつた村落であると考えられる。これら4つの区画の南側には、溝で区画された南北幅10～15mの細長い区画を呈している。当該遺構の機能は判然としないが、生活空間ではない可能性がある。また、屋敷区画の北側には遺構をほとんど伴わない溝で区画された空間がある。当該区域では、列状の配石が平行する道路状の遺構が東西に延伸している。この遺構の直上の現況の土地利用は市道であることを考慮して道路遺構と想定し、遺構を伴わない空間は共用空間になると推測している。

中央市域における当該期の村落遺跡の事例は稀有であり、本調査の成果は中世の村落構造における生活空間の構成や屋敷墓の事例、村落景観の復元など様々な視点の検討課題を提供した。出土遺物の多さも相まって、中世の郊外城の歴史景観を考えるまたない機会である。また、本遺跡の基盤層は深さ5m以深まで続く河川堆積の粗砂層であり、釜無川の流路変遷に由来するものと考えられ、より広域な土地利用の歴史や歴史景観の検討において重要な資料になる。リニア中央新幹線の建設に伴う調査は、甲府盆地南部を東西に横断する地質情報が得られるチャンスである。調査の一地点の情報で完結するのではなく、より広域な土地利用を検討することも重要な課題であろう。



遺跡位置図



C 区遺構配置図



調査区鳥瞰（北西から）



屋敷を区画する溝



石組みの井戸



埋葬された人の骨（土塚墓）

1-2 下向遺跡

所在地 笛吹市境川町三櫛地内

事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事

調査期間 2022年4月26日～7月30日

調査面積 約1,500m²

担当者 久保田健太郎・佐藤孝志

調査経緯 当該地点は、甲府盆地南部に広がる曾根丘陵東端の坊ヶ峰の麓に位置する。中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴い当該地点で実施した試掘調査により、中世の土師質土器を中心とした埋蔵文化財が発見された。この試掘調査結果を踏まえ、埋蔵文化財が包蔵されると推測されるエリアを周知の埋蔵文化財包蔵地「下向遺跡(しもむこういせき)」として登録した。

当初は橋脚1箇所分のみを調査対象とする予定であったが、特に土師質土器が多数発見された範囲を含む約1,500m²が工事の中で掘削される計画となった。県文化振興・文化財課と事業者である東海旅客鉄道株式会社とで保護に関する協議を実施したもの、設計変更が不可能であったことから、工事により掘削される範囲を対象とした記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

調査結果 調査区内で最も標高の高い調査区西側で高さ約1m、幅約10mの範囲で崩落した状態の石垣が発見された。また、特にその周辺に多量の土師質土器が分布する傾向が明らかとなった。このエリア以外からも土師質土器が発見されたが、小破片が主体であり、石垣周辺に堆積した土器が二次的に散布したと推定される様相を呈していた。

石垣の上面は平坦で、石垣周辺から和釘が多数発見されたことから建造物が立地していた可能性が想定される。ただし、本調査範囲では石垣上面の大部分が対象外であるため、礎石や掘立柱、雨落ち溝など、建造物に関わる遺構は発見されなかった。いずれにせよ、坊ヶ峰の斜面に平坦な土地を造成するため、斜面に対する切土と盛土をし、盛土部分の崩壊を防ぐ目的の擁壁として石垣が築かれたものと考えられる。そのため、石垣上面にあたる調査区南側エリアで開発がある際には、埋蔵文化財の有無を丹念に確認する必要がある。

石垣周辺から出土した土器には、中柱高台や脚高高台が特に多い傾向がある。その他の器種はかわらけに限定され、煮沸具その他調理具は発見されていない。

前述のとおり石垣は高さ約1m、幅約10mに亘って発見されたが、全体的に崩落しており、元の石垣の規模や構造には不明な点が多く、今後調査成果の解析を通して検討していく必要がある。石材は比較的小ぶりで、積み方の特徴はほとんど不明であるが、主に近代に一般的な石積みの形式である落とし積みの特徴はみられない。周辺で発見された遺物の年代によれば12世紀

ごろの所産と思われるが、整理作業時に検証する。

調査所見 出出土器の器種組成がかわらけや柱状高台、脚高高台に偏ることや、坊ヶ峯と境川に挟まれた狭小な土地に立地する遺跡であること、石垣周辺に遺物が集中する傾向がみられることなどから、当該遺跡は集落ではなく、信仰に関連するものである可能性が高い。特に石垣上端には関連遺構が分布すると思われ、今後、保護をしていく必要がある。



遺跡位置図



周辺の中央新幹線関連調査



調査区遠景（北側の笛吹川方面を望む）



発見された石垣



解体調査過程の石垣



石垣周辺で発見された柱状高台付き壙

1-3 御陣屋遺跡

所在地 西八代都市川三郷町市川大門234-5

事業名 市川大門郵便局建設工事

調査期間 2022年3月23日～5月27日

調査面積 約222m²

担当者 敷野優・内田祥一



遺跡位置図

調査経緯 本事業は、日本郵便株式会社が実施する市川大門郵便局建設工事に伴うものである。本遺跡は2020年度の試掘調査によって新規に発見された。調査範囲は、局舎建設部分の約222m²であり、遺構面は全部で4面存在している。予算措置については年度をまたぎ、繰越で実施し

た。2022年度は、表土掘削の後、4月7日から作業員を入れて1面目の遺構面精査や図化等記録作業、空撮を実施し、4月28日からは2から4面目の調査を順次実施、5月27日に調査を完了した。調査終了後、本格的整理作業を実施し、2023年3月17日に報告書を刊行した。

周辺環境と過去の調査 遺跡の所在している市川大門地域は市川三郷町の中心部に当たり、笛吹川の南岸にある。当地域の南側に隣接する平塙岡には、古代以降の甲斐国の大台召の拠点として知られる平塙寺や源義清が居を構えたとされる伝義清館、延喜式内社の弓削神社といった施設が展開し、近世以降では、御陣屋遺跡と同じ微高地に甲斐国の中西部に支配拠点として設置された市川代官所跡や当時の町割りが広がっている。扇状地端部付近には県立青森高等学校建設工事に伴い調査された新町前遺跡があり、弥生時代から中世にかけての遺構面が確認されている。なお、当地点では明治後期から昭和30年代頃にかけて製糸場が操業しており、近代の製糸業に関係する遺構の検出や遺物の出土も想定した。

調査結果 1面目では縫糸網や集糸器などの製糸業に伴う遺物が出土した。これらは明治時代から大正時代に製造された縫糸機の部品と考えられ製糸場が操業していた年代と一致する。また製糸場との関連は不明だが複数の煉瓦片などが出土した。煉瓦の寸法では大正14年以降の規格と一致するものがなく、これ以前に製造されたものと考えられ、これらも製糸場が操業していた年代と一致する。また、調査区南側では畝跡と考えられる畝間と土坑2基が検出された。2面目では中央付近において試掘の際に江戸時代後期の地鎮跡と推定した土器集積遺構が検出されたほか、南側のレンチにおいていくつか遺構が検出された。但し遺物は伴わず、レンチ掘りという調査方法の制限もあり、各遺構の関係性については不明である。3面目では2つのレンチで柱穴と思われる遺構を検出したが、建物の規模や性格などは不明である。3面目の下層には細砂が塊状に混じる硬化面が見られたが、その分布は北側に僅かで、ほとんどが南半分に広がっていた。当地点が微高地の南端であるため、土地利用をする際に高低差を克服しようとした可能性が考えられる。4面目では炉跡と甕が検出された。調査区全体に遺物の分布がみられ、形状から中世の遺構面と考えられるが3面目での遺物出土が僅かであり、3面目と4面目の時期差については不明である。

調査所見 従来、当該地域では人々が平塙岡から現在市街地がある微高地に生活基盤を移したのは、近世に入ってからであると考えられてきた。しかし、今回の発掘調査を通じて中世には明確な人の活動痕跡が認められ、さらに近隣では前述した新町前遺跡が発見されている。今後は周知の範囲外に遺跡が多数存在する可能性を踏まえ、積極的な調査の実施や関連する歴史資料を再検討するなど、地域をあげて埋蔵文化財の広がりを把握していく必要がある。



調査区遠景（北側の笛吹川方面を望む）



1面目 垂直写真（近代）



1面目 煙跡（近代）



4面目 炉跡（中世）



4面目 魚出土（中世）

1-4 新町前遺跡（第4次）

所在地 西八代郡市川三郷町市川大門1733-2
事業名 峠南地域単位制・総合制高校建設事業
調査期間 2022年3月4日～7月29日
調査面積 約1200m²（約400m×3面）
担当者 斎野 優・岩永祐貴・内田祥一・高野玄明

調査経緯 本事業は、峠南地域単位制・総合制高校建設事業に伴う新町前遺跡（第4次）の記録保存を目的とした発掘調査である。当該地点には、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったものの、2017年度の試掘調査により、埋蔵文化財が確認されたことから、新たな埋蔵文化財包蔵地「新町前遺跡」として遺跡台帳に登録された。その後、2018年度、2019年度、2020年度に清州高校整備事業に伴う校舎や体育館等の建設時に先立ち、本調査を実施している。

今回の発掘調査は、雨水浸透施設建設に伴うもので、新町前遺跡として第4次目となり、2022年3月4日から調査を実施し、問屋の除去や法面形成のため重機を使用しながら7月29日まで行った。

周辺環境 新町前遺跡は、甲府盆地南縁から流れれる芦川が形成する扇状地に立地し、標高は248m前後を測り、甲府盆地の中でもかなり低地の部分に遺跡は立地する。本遺跡周辺は、平安時代末期に甲斐源氏の祖である源義清が甲斐国に配流されて、初めて館を構えたとされる平塙館や、古代寺院平塙寺、延喜式内社である弓削神社などがあり、古代の政治的活動が活発な地域であったと考えられる一方で、周知の埋蔵文化財包蔵地は皆無とされ、遺跡の空白地帯といわれてきた。

調査成果 基本土層は、現地表から0.2m程は底土による造成面がみられ、以下0.9m付近までは近世以降の水田跡や畑と思われる褐色の砂層が見られる。河川氾濫の礫層上に見られる黄褐色の中粒・細粒砂上に中世～平安時代の遺構・遺物が確認できる。中世として確認された遺構は、溝状遺構と地震による液状化（噴砂）跡が確認され、出土遺物は、土師質土器（かわらけ）や青磁片等が出土している。平安時代では、堅穴建物跡4軒、土坑8基が検出されている。出土遺物は、土師器壺、甕、須恵器壺等が確認されている。その下部地表下2.5m程には、黄褐色の細砂上に、古墳時代前期の遺構・遺物を包含する層が厚く堆積し、地表下4.0m程まで、弥生後期の遺構・遺物が確認される層が堆積している。古墳時代前期の遺構として堅穴建物跡2軒、溝状遺構2条が検出され、出土遺物は甕類、台付甕類、高环等、破片資料も多量に確認されている。弥生時代後期では、堅穴建物跡3軒、土坑4基、溝状遺構11条が確認され、特に堅穴建物跡が焼失している状況が窺え、出土遺物も甕類や壺類が見られる。その下層には褐色粘土層、さらに下部には砂礫層が確認され湧水を伴う。

調査所見 これまで新町前遺跡は、第1次～第3次に渡り校舎や体育館等の建設に伴って発掘調査が実施され、今回の第4次の調査面積は、これまでに比べ、狭小な範囲での調査であったが、土層の堆積状況など遺跡を取り巻く環境が異なる様相を呈していた。第1次～第3次の調査では、中世の畠や水田跡、平安時代の堅穴建物跡等が確認され、今回も同様な時代や時期が想定されていたが、平安時代の下層には古墳時代前期～弥生時代後期へと連続と続く褐色の砂層が約1.5mと厚く堆積している状況が確認され、包含層及び遺構確認面が良好な状況で残存しており、該期の遺構や遺物が存在していた。

旧市川大門町においては、元々遺跡が希薄な地域であり、清州高校建設に伴う調査において、中世～平安時代の遺跡が確認できたことは貴重な事例である。ましてや、甲府盆地南端の低地において弥生時代後期の遺構の確認は初めてのこととなり、該期における県内の遺跡分布状況や、遺跡を取り巻く環境を知る上で極めて貴重な事例となった。



遺跡位置図



航空写真（南東方向から北西方向を望む）



遺物出土状況（中世：土師質土器）



カマド完堀状況（平安）



遺物出土状況（古墳前期）



竪穴建物跡（弥生後期）遺物出土状況

1-5 甲府城下町遺跡

所在地 甲府市城東二丁目10-15
事業名 一級河川濁川河川改修事業
調査期間 2022年7月7日～8月31日
調査面積 約700m²
担当者 岩永祐貴・秋山浩文

調査経緯 甲府城下町遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、一級河川濁川河川改修事業に伴うものである。事業地には周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」が該当しており、2021年8月までに事業用地全域の試掘調査を実施して、本格的な発掘調査による記録保存が必要と判断された。

本事業では、2021年度にも発掘調査を実施しており、船着場と想定される遺構が検出された。今回の調査地点は、その検出場所の北側に隣接する土地約700m²を対象に、7月7日から発掘調査を開始した。

周辺の環境 甲府城下町遺跡は、荒川の扇状地扇端部の標高約258mの地点にある。調査地点は、広く見れば東へ緩やかに傾斜している。甲府城下町遺跡全体は、概ね標高260m～300mの扇状地斜面に立地する（昭和測量株式会社編2021）。本調査地点の標高値は、258.8～259mであり、甲府城下町遺跡のなかでも低い標高の地点に位置している。

調査地点から北西にある一条小山には、甲府城の天守台が築かれたとされる。甲府城下町は、この天守台を中心として内堀・二の堀・三の堀と三重の堀を巡らせた城下町である。二の堀の内側は武家屋敷地で三の堀の内側は町人地である。調査区は三の堀の内側にある町人地に位置する。

調査成果 今回の発掘調査では、明確な江戸時代の活動痕跡を捉えることはできなかった。しかしながら、江戸時代から明治時代以降の陶磁器、古銭、木製品といった遺物を発見した。

地表面から1層目は、現代の表土層で30cmほどの厚さがある。2層は暗褐色粘質土で遺構検出面となる。3層は、灰色砂質シルトで、ラミ構造が認められる。2層目とした暗褐色粘質土は、φ2～5cm台の礫を多く含んでいる。この層は、近距離で含まれる礫の大きさが異なる。水流の強さがある程度一定であったことを想定すれば自然と考えにくい。また、2層と3層の間は不整合である。このことから、人為的に盛り土された可能性がある。

上記の人为的な盛り土の可能性がある暗褐色粘土層が遺構検出面となる。現代から明治時代にかけての遺構が、1面から検出されることから、遺構の時期の特定が非常に困難であり、何度も擾乱を受けていることが想定できる。明確な擾乱の時期としては、空襲後に1度あることが分かったが、これの前後は明確ではない。

特筆する遺構は溝跡（SD03）である。この溝は底に木製構造物を敷いており、水道としての役割があったことが想定される。傾斜を確認すると、西側へ流れるようにできており、仮に水が流れていたとすると三の堀からの供給が想定できるが、隣接の調査区ではSD03の続기가検出できていないため、不明な点が多い。

参考文献

昭和測量株式会社編2021『甲府城下町遺跡26（中央5丁目1区）～都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書～』甲府市文化財調査報告117



遺跡位置図



調査対象地遠景



調査区実掘状況



井戸跡の半裁状況



溝跡検出状況



織部焼鉢

1-6 小井川遺跡(第6次)

所在地 中央市布施地内

事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事

調査期間 2022年10月13日～2023年2月10日

調査面積 約830m²

担当者 敷野優・内田祥一

調査経緯 本事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う小井川遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。調査範囲は本線建設範囲のうち、橋脚部分の約830m²であり、名古屋方(西側)の460m²をA区、品川方(東側)の380m²をB区とした。

遺構確認面は試掘調査の結果から2面あると想定された。発掘調査は2022年10月13日から2023年2月10日の期間で実施した。

周辺環境と過去の調査 本遺跡は甲府盆地南部の沼澤原にある遺跡である。布施地区は古代から「布施莊」として開発がなされてきたところで、近世以降は身延方面へ通じる河内路や市川大門方面へ通じる市川道が交差している交通の要所であった。小井川遺跡は今回事業の調査以前に、同事業に伴い、2021年度に1回、隣接している新山梨環状道路建設工事に伴い平成15年から平成18年にかけて4回の計5回に及ぶ発掘調査が実施されている。過去の調査では、古墳時代から近世にかけての埋蔵文化財が確認されており、竖穴住居遺構、大規模溝造構、寺院と思われる大型建物遺構、木棺墓等の遺構のはか、かわらけ、古錢、五輪塔などの遺物が確認されている。

調査結果 基本層序はA区、B区共に細砂層・シルト層と粗砂層の互層であり、1面目の遺構確認面は細砂層で、2面目の遺物包含層は細砂混じり中粒砂層で検出された。

1面目は中世の遺構確認面が検出された。A区では東西・南北方向を流れる溝が5本検出された。うち南北を貫く1本は、小井川遺跡1次調査で検出された近世の溝の直下にあり、中世から近世を通しての土地利用の連続性を伺わせる。溝中からは中世のかわらけやすり鉢などの土器片や漆椀や下駄などの木製品、五輪塔や茶臼などの石製品が出土した。かわらけについては、完形品が14枚を数えたほか、大きさや器壁厚などにも一定の傾向が見られ、昨年度に比べ7倍の出土量であった。B区では、南北方向を流れる溝が1本検出された。溝中から中世のかわらけをはじめとした土器片や凹み石などの石製品が出土した。

2面目は古墳時代後期～終末期の遺物包含層が検出された。壺や甕などの土器が出土したが、いずれも小破片であり、完形品は出土しなかった。昨年度調査地点と比較すると、1面目の様相とは逆転し、2面目については出土量が大幅に減少したと言える。なお、調査区下面からの出水が激しかったこともあり、遺構検出は断念した。

調査所見 1面目は中世の遺構や遺物が多く出土し、過去に調査してきた小井川遺跡の中心部に近い地点と考えられる。一方で2面目は古墳時代中期～後期の遺物が出土したもの、出土量はわずかであり、昨年度調査地点における出土量と比べ圧倒的に少ない。これは令和2年度調査の上三條河原遺跡から西へつづく、古墳時代の文化層から徐々に外れている地点であるためと考えられる。



遺跡位置図



調査区遠景（南東側から布施地区を望む）



A区 1面目 垂直写真



A区 1面目 かわらけ（中世）



A区 1面目 木栓（中世）



B区 2面目 壺（古墳時代）

1-7 池田神明遺跡

所在地 笛吹市石和町唐柏・小石和地内
事業名 新山梨環状道路東部区間II期建設工事
調査期間 2022年8月25日～2023年3月28日
調査面積 約2.780m²
担当者 久保田健太郎・佐藤孝志

調査経緯 新山梨環状道路東部区間II期建設工事に伴い令和3年度に当該地点で実施した試掘調査により、中世の土師質土器を中心とした埋蔵文化財が発見された。この試掘調査結果を踏まえ、埋蔵文化財が包蔵されると推測されるエリアを周知の埋蔵文化財包蔵地「池田神明遺跡(いけだしんめいいけき)」として登録した。

文化振興・文化財課、埋蔵文化財センター、新環状道路建設事務所で保存についての協議を実施した結果、工事により埋蔵文化財が破壊されることとなる橋脚部分と、恒久的構造物である側道部分のみを調査対象とし、その他の範囲は保存区域とすることとなった。

調査の方法 甲府盆地内の沖積地にあたる当該地域は地下水位が高く、掘削底面からの出水により適切な遺構の探索や確認が困難となることが予想された。また、当該地域の表層地質が周辺河川の氾濫による砂層を中心とした水成堆積物によって構成されることから、地下水によって壁面が崩壊し、安全な調査に支障をきたすとも想定された。これらのことから①調査区の周間に地下水の流入を防ぐ目的の排水溝を設け、釜場からポンプアップして常時排水すること、②調査区全体を同時に掘削・調査するのではなく、概10m間隔で調査区を分断し、排水管理・安全管理の対象を限定することで安全で適切な調査遂行を可能にするという調査手法を取ることとした。

調査結果 ①：調査区全体において、地表下約1.5mから畠の歎跡が検出された。その他の遺構にはわずかに土坑がみられたのみである。遺構の形成時期は、遺構面を覆う堆積層中に含まれる遺物の年代から14世紀から15世紀であると想定される。遺物にはかわらけ、椀、内耳鍋、すり鉢、銭貨などがある。いずれも小破片で、水流によって摩耗したものも多い。平面分布に粗密はみられず全体に散漫に散布しており、包含層がシルト質砂によって構成されていることを踏まえると、これらの遺物は当該箇所における活動に伴って散布したものではなく、周辺河川の氾濫によって砂泥とともに二次的に堆積したものと理解すべきと思われる。

②：調査対象とした14世紀から15世紀に形成されたと想定される遺構面よりも上層には、複数枚の氾濫堆積層が形成されている。これは甲府盆地内の沖積地に位置し、周辺を河川に囲まれている当該調査区の堆積環境に由来する。この各氾濫堆積層の合間に、2面の水田面、少なくとも1面の畠の面がある。当該調査地点は唐柏や小石和の集落の中間地に該当し、現代においても周辺には耕作地が展開するが、これは14世紀代からの基本的な土地利用の形態であることがわかる。

現在の周知の埋蔵文化財包蔵地範囲外に遺跡が広がる可能性は高く、周辺での試掘調査が必要である。

なお、調査期間中に地域住民を対象とした現地見学会と、石和西小学校3～6年生を対象とした現地見学会を実施した。併せて307人の参加があった。



遺跡位置図



周囲に溝を巡らすこと、掘削面の保水量を低減させた。



調査区遠景（北から）



検出された細の歴間溝跡（調査区の1つ）

1-8 上窪遺跡

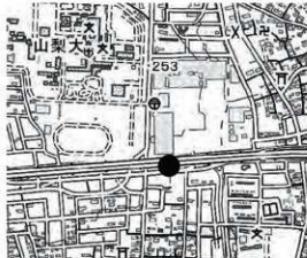
所在地 中央市下河東地内

事業名 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事

調査期間 2023年1月10日～

調査面積 約2,400m²

担当者 御山亮済・小高鉄平・桐部夏帆



遺跡位置図

調査経緯 当事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施するリニア中央新幹線建設工事事業に伴い記録保存を目的として行った、上窪遺跡の埋蔵文化財発掘調査である。発掘調査区の設定に当たっては、リニア本線の橋脚部及び付帯施設の建設が計画されている5工区を設定した。

周辺環境 当遺跡が所在する中央市は甲府盆地の盆地底部に位置し、釜無川または釜無川旧河道やその支流が形成した扇状地が南北方向に長く広く展開する地域であり、扇状地上に形成された自然堤防上に村落が発達している。当遺跡はこれまでに中央市教育委員会により10次に渡って発掘調査が行われている。本調査区の北側には新山梨環状道路南部区間に伴う5次調査の調査区があり、4面の遺構面が調査されている。5次調査の結果では、9世紀後半の集落跡、10世紀前半頃の田畠跡、10世紀前半頃の墓跡、鎌倉時代の水田跡が見つかっている。

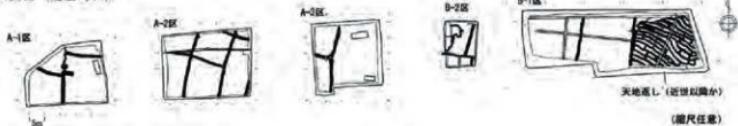
発見した遺構と遺物 本調査では、鎌倉時代頃の水田跡（1面）、10世紀前半頃の田畠跡（2面）、9世紀後半頃の集落跡（3面目）が見つかった。1面目では、畦畔で囲まれた水田面18面、水口3ヶ所が見つかった。水田面は約13°東偏する軸を主軸とする長方形を基調としている。水田面の標高及び水口の位置から、北西から南東に向かって水が供給されたと考えられる。水田面1枚当たりの面積は80m²程度になると想定される。B-2区の東端で見つかった水田面では、後世（おそらく近世以降）に当該遺構面を掘り込んだ天地返しを検出した。なお、B区においては、1面目検出時点において地表面下約3.8m～4.0mとなり、事前の地質調査において、以深の掘削においては盤虜の恐れが指摘されていたことから以深の調査を断念した。

2面目では、水田面10面、畠跡3面、溝1条、木材集積2ヶ所を検出した。水田形状は不整形であり、水田に隣接して畠跡が散在する。A-2区では、水田に接続する溝1条を検出した。A-2区、A-3区では、水田畦畔沿いに枝材を中心とした木材の集積を検出した。木材は加工の痕跡は認められないことから、自然による木材集中か、人為的な集積かは現時点で不明である。当該遺構面では噴砂の痕跡を検出し、噴出した粗砂が水田面直上に堆積していた。さらに噴砂の粗砂上に洪水砂が堆積している。噴砂（地震）から洪水までの時間差は不明であるが、水田面の廃絶は地震によるものであることは明らかである。

3面目では、豊穴建物跡4軒、掘立柱建物跡1棟、溝5条、土坑1基、ピット2基、焼土1基を検出した。豊穴建物跡のうち2軒では南東隅にカマドを検出したが、他2軒はカマドを有さないか調査区外にある。検出したカマドのうちSI05のカマドは、カマドの袖及び天井を木杭、板材を骨子として粘土を貼り付けて構築している。同様のカマド構造は、平田宮第2遺跡、小井川遺跡において同時期のものが確認されており、中央市域における地域的な特徴と捉えられる。A-2区において検出した掘立柱建物跡は中心に柱を持ち、周囲を約5cm程度掘り込んでいる。掘り込みの内周には10本の柱穴及び柱根を検出した。全ての柱根が南東方向に向かって傾いていることから、廃絶時に建屋自体が南東方向に向かって倒壊したものと考えられるが、倒壊の要因は不明である。A-3区では、南北方向の溝が検出しており、この溝以東においては遺構及び遺物の検出が著しく希薄になる。したがって、現時点では当該溝が当該区集落の東端に当たると推測する。

調査所見 本調査においては、中央市教育委員会における既往の調査の成果を補完する成果が得られた。検出した各面においては、いずれも災害（または災害復旧）の痕跡を看取ることができ、当該地域における災害史に貴重な資料を提供した。1面目、2面目の生産遺跡としての土地利用としては、水懸かりの様相や周辺の地下堆積の聞き取り調査から、調査区の西側に微高地（自然堤防）が南北方向に展開していることが推定され、中世以降では微高地から外れた低地部に田畠などの生産区域が広がっていたと想定される。

1面目（鎌倉時代）



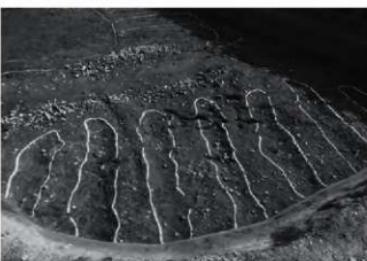
2面目（平安時代後半（10世紀前半頃））



3面目（平安時代中期（9世紀後半頃））



天地返し（1面目）



烟跡（2面目）



壁穴建物跡（3面目）



壁立柱建物跡（3面目）

1-9 西下条五割遺跡

所 在 地 甲府市西下条町1167-5, 1167-53
事 業 名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事
調査期間 2023年2月6日~ 3月31日
調査面積 約370m²
担 当 者 岩永祐貴・秋山浩文

調査経緯 西下条五割遺跡の発掘調査は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴い記録保存を目的として行った。本調査は遺跡範囲のうち、中央新幹線の橋脚基礎部分が建設される部分のみを実施した。遺跡は地表下2.9mの地点に1面があり、最終的には、地表下3.3mまで掘り下げた。こうした特質から、調査区の南北は地権者の協力を得て借地を行い、安全勾配をつけて掘削を行った。遺跡は3面の遺構面があり、1面あたり約370m²を調査した。

周辺の環境 西下条五割遺跡は荒川と五割川に挟まれており、荒川の約300m東にある。荒川と笛吹川の合流点に近く、これらの河川が形成した氾濫原に位置している。周辺の遺跡としては、笛吹川を挟んだ反対側には曾根丘陵があり、そこには、古墳時代の墓群が形成されている。また荒川の対岸には中央新幹線事業に伴う試掘調査において、2021年度に発見された大津横田遺跡などがあり、中世の段階から周辺地域において、水田としての土地利用がされてきた痕跡を見ることができる。

調査結果 この遺跡からは、3面の遺構面を確認した。1・2面目は近世に、3面目は中世に属すると考えられる。1面目では、2枚の水田を検出し、南北に1条の畦畔を検出した。この畦畔には、水口が確認できた。耕作土からは、近世の陶磁器やキセルなどが出土している。また、西面と東面で段差がついており、西から東へ水が流れるようになっていた。1面目の水田は、ラミナ構造が認められる砂層によって覆われており、洪水によって耕作が中断したことが伺えるが、この上層にも鉄分が沈着した現代の水田層も認められていることから、繰り返し水田としての土地利用をしていたことがわかる。

2面目の水田も、2枚の面を確認した。1面目の畦畔と同じ箇所に1条の畦畔があり、同じ区画で形成されている。こちらも近世に属する水田で、耕作土からは陶磁器が見つかっている。2面目の水田は、東面の水田が砂層によって削られている状況が確認できた。こうした状況から、洪水により、部分的に破壊されたことによって、復旧して1面目の水田が作られていることがわかる。

3面目の水田は、区画が変わつており東西方向の畦畔1条を確認した。ただし、縦面で確認できた程度で、平面的にはほとんどが調査区外となっている。遺物は、かわらけが出土している。

調査所見 水田を3面に渡って確認した。中世段階と想定される3面目は、東西に伸びる畦畔を確認した。ただし、西壁北端から北壁にかけて斜行している状況が壁面の堆積状況から確認できたのみで、ほとんどが調査区外のため、詳細な様相は不明である。また、周辺の調査成果が乏しく、中世段階での条里の様相を考古学的に証明する段階ではない。これからも中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う試掘調査が、継続的に実施されていく。緻密な試掘調査と発掘調査を実施して、周辺の地下様相を探り、この地域の土地利用の変遷を明らかにする必要がある。



遺跡位置図



調査区遠景(西から)



水田に残された足跡(1面目)



畦畔棱出状況



畦畔上の水口

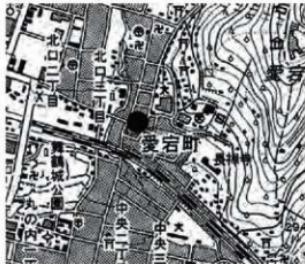


調査区全景(2面目)

2 県内分布調査（国庫補助事業）

2-1 史跡甲府城跡関連石切場跡詳細分布調査

所 在 地 史跡甲府城跡（愛宕山石切場跡）甲府市愛宕町85番地2
大沢採石跡 南巨摩郡身延町下山3826ほか
甲府市上積翠寺町、下積翠寺町、和田町、塚原町、小松町、
吉府中町、岩窪町、愛宕町、東光寺町
事 業 名 史跡甲府城跡関連石切場詳細分布調査
調査期間 2022年4月1日～2023年3月31日
調査面積 愛宕山石切場跡：約325m²、大沢採石跡：約587m²
担 当 者 佐賀桃子・高左右裕・小池準一



遺跡位置図

2021年度から史跡甲府城跡関連石切場詳細分布調査として、愛宕山

石切場跡を含む山梨県内の石切場跡の調査を実施している。2年目となる2022年度は、愛宕山石切場跡、大沢採石跡の確認調査や分布調査を実施した。

① 史跡愛宕山石切場跡の試掘確認調査

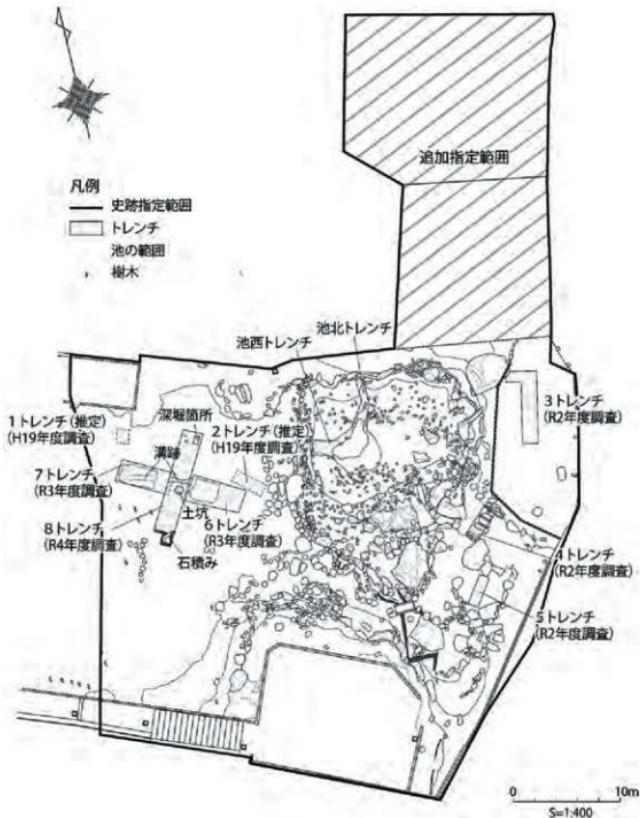
【地上部】 2021年度の確認調査では、西側平坦部において2m程間隔を空けて2ヵ所の調査区を設定し、1条の溝と大量的の安山岩の破片を確認した。それらの構造の帰属時期が不明であること、2ヵ所の調査区で大きく様相が異なるため、令和4年度はその間に1ヵ所の調査区を設定し、史跡西側における土地利用痕跡を確認した

8号トレンチ 地表下約60cmで概ね水平に堆積する黒褐色粘土層を検出し、地表下約75cmで令和3年度の調査においても確認された地山と考えられるに近い黄褐色シルト層を確認した。遺構は近代と考えられる石積み、土坑、ビット各1基を検出し、それぞれ煉瓦片や陶器等が出土した。また時期不明の溝1条、ビット1基を検出した。この溝は、東西へ約6.5m延び、調査区外へ続いている。深さは約20cmで、底面は概ね平坦である。遺物は確認されなかつたため帰属年代は不明だが、令和3年度に検出した溝の延長線上に延びていることから同一の溝と考えられる。トレンチは、三次元測量による測量後、記録写真撮影を行った。検出した遺構は土のうで養生し、発生土により埋め戻しを行った。

【池部】 史跡内にある約305m²の池の浚渫とともに土層堆積状況と岩盤の形状を確認することを目的に清掃発掘調査を実施した。当初は岩盤までの最大深度は表層～最大1.2m以内と想定していたため、安山岩の破片が面的に広がる深度直上程度まで重機により慎重に掘削する計画であった。掘削中、想定より土砂の堆積が複雑であることが分かったが、湧水量が多く排水が間に合わないことから、池の北側と西側に土層堆積状況を確認するためのトレンチを設定し、堆積状況の確認を行なながら水を貯める場所を作ることとした。また、全体的に高圧洗浄機により清掃し、安山岩の破片が多量に含まれていることを確認した。

池西側トレンチ 池の際に当たる部分であるため、石積み等の護岸施設の存在を想定したが、このトレンチでは確認できなかった。湧水が激しく、土層堆積状況を図化することが困難であるため、写真及び模式図で記録した。地表下約50cmでグリル化した土壌が確認された。堆積土の中には安山岩の破片が確認でき、池内の他の部分と同様の堆積状況が確認された。また、壁面清掃中に漆器片が出土した。明確な層位は不明だが、地表下約110cmのトレンチ底面付近と考えられる。

池北側トレンチ 池北側には約3mの切り立つ岩盤があるため、岩盤の底部を追うことができるようトレンチを設定した。なお、堆積土の上部は、トレンチ設定前に10cm程重機による掘削を行っており、堆積状況を記録することができなかつた。岩盤付近では約10cm掘削したところで岩盤（軟岩層）を検出した。切り立つ岩盤から南へ緩やかに傾斜している様子が確認できたが、トレンチの幅が約50cmと狭小であったため、岩盤の加工痕跡は確認できていない。全体的に自然石とともに安山岩の破片が多量に散布しているが、土層堆積状況を確認すると、池中央付近において岩盤直上に安山岩の破片が密に堆積している状況が確認できた。この破片集中箇所の上面では、漆器片が確認されている。



第1図 愛宕山石切場エリア平面図 (1/400)



8号トレンチ 遺構検出状況

池北トレンチ土層堆積状況

池全景

② 大沢採石跡の試掘確認調査

南巨摩郡身延町下山に位置する大沢採石跡は、江戸時代中期頃に行った身延山久遠寺の菩提樹の修復時に使用した石切場跡とする伝承があり、現地には約5mの礫岩に複数の矢穴列が確認できる。愛宕山石切場跡とは石材が異なるものの、同時期の石切場の様相を把握するために清掃発掘調査を実施した。

大沢採石跡及び隣接する大沢川には、礫岩を中心とした石材が確認される。現地には約5mの礫岩に幅約二寸の矢穴列や直徑約3cmのルートハンマー痕が確認できる。また、調査対象範囲において礫岩の破片で構成される石積み及び石列が複数確認できる。帰属年代は不明だが、地元住民に聞き取ったところ、約50年前は田畠として利用していたことなので、田畠の区画として積み上げた可能性がある。遺物は確認されなかつたため、石切場として用いられた具体的な時期は不明だが、近世から近代にかけて採石が行われていたと考えられる。

現地は、地元住民有志によって石切場伝承地と紹介する看板が建てられて保護されているものの、埋蔵文化財包蔵地として周知されていない。そのため、今回の調査成果をもとに埋蔵文化財包蔵地として登録する。



遺跡位置図



矢穴列がある岩



石積み



元文六年の記銘がある基石



大沢川の岩

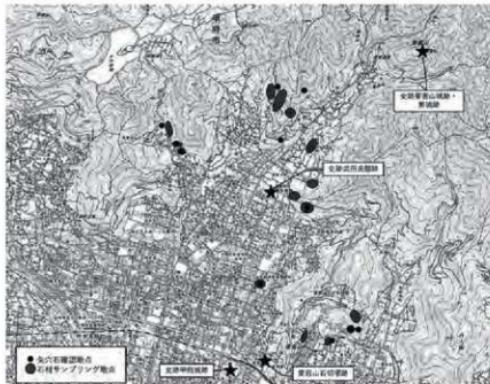
③ 甲府市内石切場跡の分布調査

甲府市上積翠寺町、下積翠寺町、和田町、塙原町、小松町、古府中町、岩窟町、愛宕町、東光寺町等を対象に、石切場跡の分布確認や安山岩の成分分析のための試料採取を目的とする踏査を行った。その結果、既に所在を確認されていた箇所を含め、少なくとも近代以降に産業したと考えられる石切場跡を11箇所確認した(第2図)。現地では削岩機の痕や一寸から二寸の矢穴を確認した。宮前町八幡神社では、1石ではあるが、四寸の矢穴痕を確認した。

また、身延町内には大沢採石跡の他にも久遠寺の菩提樹の石切場伝承地があり、身延町教育委員会と久遠寺の協力のもと、梅平

地区的現地踏査を行った。踏査の結果、石切場跡は確認することはできなかった。

安山岩の成分分析を行うことにより、甲府城跡の石垣石材の産出地を探る試みとして、帝京大学文化財研究所と共同研究を行った。分布調査でサンプリングした石材及び史跡甲府城跡、愛宕山石切場跡、また、甲府市教育委員会歴史文化財課の協力のもと、史跡武田氏館跡、史跡要害山城跡・熊城跡の石垣及び岩盤のサンプリングを行った。今年度は第1段階として、甲府盆地北部に分布する太良ヶ峰火山岩と水ヶ森火山岩類が化学成分によって分類可能かを検討した。その結果、それぞれの火山岩が分布地域によって異なる化学成分を示すことが確認できた。一方で、太良ヶ峰火山岩と水ヶ森火山岩で類似する化学成分を示す原産地も存在することが明らかになった。



第2図 甲府市内の石切場跡 分布調査範囲



宮前町 八幡神社裏 四寸矢穴痕



岩窪町 二寸～三寸矢穴



小松町 近代の採石跡



史跡甲府城跡 石材分析のようす

2-2 試掘調査・開発事業照会

2-2-1 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町

調査期間 2022年4月25日～2023年3月9日

調査面積 約597m²（調査対象面積37,897m²）

担当者 正木季洋・高野玄明・秋山富喜雄・深沢鉄朗

1 調査の経緯・経過の方法

中央新幹線（品川・名古屋間）は、東京都品川駅付近を起点に、本県甲府市、赤石山脈南部（南アルプス）を経て愛知県名古屋市までの延長約286kmを超電導磁気浮上方式で走行する計画である。路線延長約286kmのうち、地上部は約40km、トンネルは約246kmである。本県においては、地上部が27.1kmと地上部全体の約67%を占め、沿線都県自治体のなかでも埋蔵文化財について、特段の注意が必要な区間と言える。

このような背景から、事業主体である東海旅客鉄道株式会社（以下、「JR 東海」と言う。）と協議を進め、平成30年度から本格的に本線部分の試掘調査を開始している。

本事業においては相当な範囲で埋蔵文化財に影響が及ぶ恐れがあることから、円滑な調査と埋蔵文化財保護行政を確実に推進していくために、毎月一回以上の定期会議をJR 東海、県リニア未来創造局リニア用地事務所、県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課、埋蔵文化財センターの四者で実施している。協議では用地取得状況、調査の進捗などを相互に確認している。

また、遺跡の調査は原則用地取得後にすることが望ましいが、広域に地下情報を把握することは急務であるため、土地所有者の同意書をもって実施することもやむを得ないとした。平成31年度（令和元年度）からはまとめてJR 東海が土地を取得した地点を原則として、包蔵地が周囲に無い地点については引き続き単独地点であっても同意書による調査を継続している。

令和4年4月から令和5年3月に本県で試掘調査を実施した地点は、笛吹市1地点、甲府市5地点、中央市1地点、南アルプス市1地点、南巨摩郡富士川町2地点、都留市2地点となる。

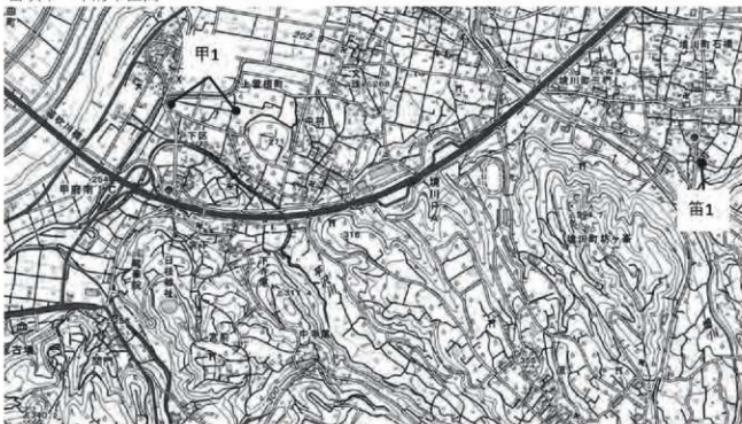
試掘調査は人手またはバックホウにより試掘レンチを掘削し、壁面・床面を人力で精査し遺跡の有無を判断した。

甲府盆地の特質上、盆地北西から流れる釜無川や北東から笛吹川などのいくつもの河川によって形成された扇状地であり、河川運搬による砂礫層が分厚く堆積している事が多く、また堆積状況も地点ごとに複雑である。なお、出水も多いことから、調査は困難を極めている。こうした状況の中、出水地点の調査は、安全基準に基づいた法面を形成し、排水しながら調査を行っている。

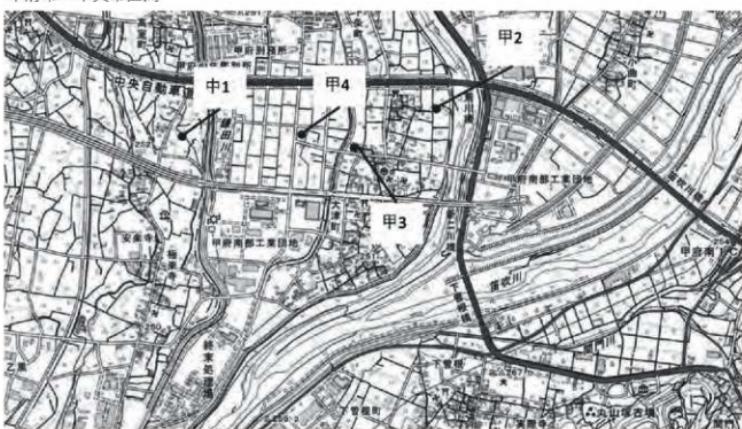
今後も出水地点における調査方法の検討や、試掘調査の安全かつ適切な方法を検討しながら、全地上部で遗漏なく迅速に調査を進めていく計画である。

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事試掘地点位置図

笛吹市～甲府市区間



甲府市～中央市区間



中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事試掘地点位置図

南アルプス市～富士川町区間

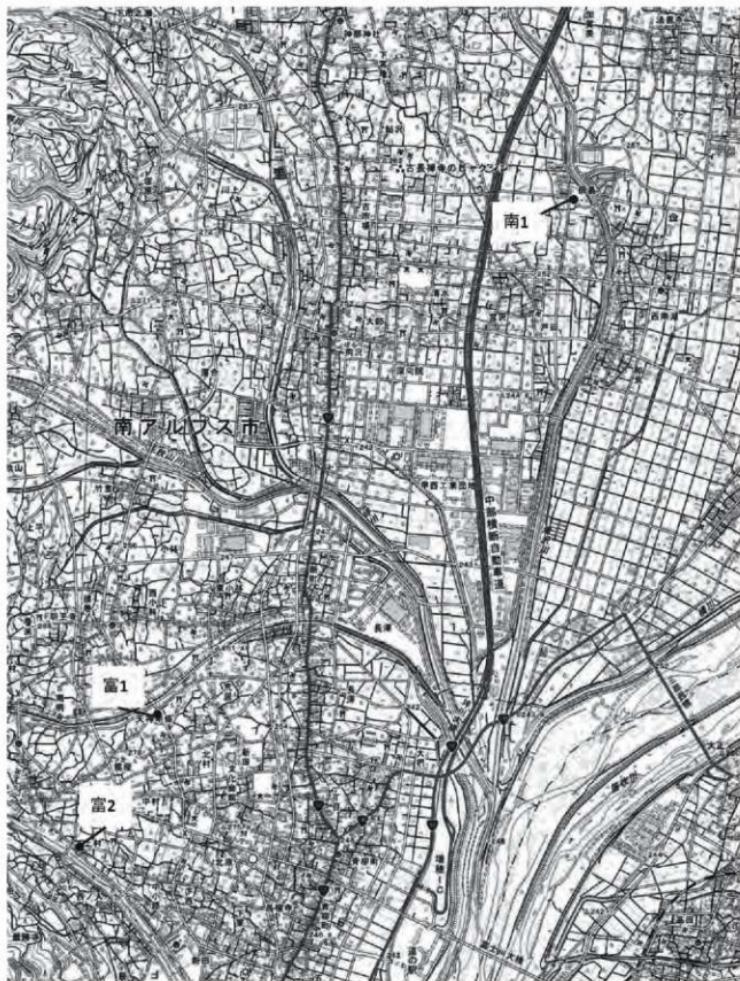


表1 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事試掘調査一覧表

No	調査地点	調査日	調査概要					調査情報				備考	
			包蔵地区分	調査対象面積(㎡)	試掘調査面積(㎡)	調査率(%)	地形	最大深度(m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度(m)	時代	
苗-1	苗吹市 境川町石橋	12月19日～ 12月20日	尾砂門 遺跡	817	37.8	4.6%	緩状地	1.4	有	有	GL-0.2 m	古墳	無 黒褐色土中から時期不明の 遺構を確認。古墳時代後期 と思われる甌の口線部や底 部が出土。
甲-1	甲府市 上曾根町	9月12日～ 9月16日	包蔵地外	5,210	98.4	1.9%	氾濫原 山地	2.3	無	無	-	-	有 GL-1.5m 調査地点の東側には藤山城 跡が存在するが、特に同進 する遺構・遺物はなかった。
甲-2	甲府市 西下条町	3月6日～ 3月9日	包蔵地外	3,180	104.9	3.3%	氾濫原	2.2	無	無	-	-	有 GL-2.0m 荒川の河川沿いであり、GL 1.5mまで氾濫による堆積層 がみられた。下のシルト層に も遺構・遺物は確認でき なかった。
甲-3	甲府市 西下条町	4月26日～ 4月28日	大津村 添遺跡	1,070	40.5	3.8%	氾濫原	2.1	有	有	GL-L1 m	中世	有 GL-1.1m 調査地点西側において、耕 作土の下に近世の水田面 があり、さらに下の黒褐色粘 質土から中世の土器片が多 量に出土した。
甲-4	甲府市 大津町	4月25日	入田遺跡	1,230	12.24	1.0%	氾濫原	1.4	無	有	-	中世	無 耕作土の下に近世の水田面 があり、さらに下の黒褐色粘 質土から中世の土器片が多 量に出土した。
甲-5	甲府市 大津町	2月28日～ 3月2日	大津 天神堂 遺跡	4,000	61.8	1.5%	氾濫原	2.2	有	有	GL-0.9 m	時期 不明	無 調査地点の西側で、粘質土 層が検出され、それを確認 面として清や浜などを検出 した。
中-1	中央市 極楽寺	1月19日～ 1月26日	包蔵地外	17,130	108	0.6%	氾濫原	2.0	無	無	-	-	有 GL-0.9m 西側隣接地では中世の細跡 や土壙が検出しているが、 当地点は河川の氾濫による 堆積であった。
南-1	南アルプス市 田島	7月19日～ 7月22日	富田城跡	2,080	67.8	3.3%	氾濫原	1.8	無	無	-	-	有 GL-0.8m 耕作土直下は河川堆積にな り、GL-1m前後で湯水が散 してい。
富-1	富士川町 天神中条	5月17日～ 5月18日	利根川 堤防跡	1,180	20	1.7%	氾濫原 緩状地	1.4	有	無	GL-0.4 m	時期 不明	無 堆体の可能性がある土層や 石積みを検出したが、トレン チが狭小ため、引き抜 き調査を継続する必要があ る。
富-2	富士川町 最勝寺	2月14日～ 2月17日	包蔵地外	2,010	45.3	2.3%	緩状地	1.8	無	無	-	-	無 耕作土下でシルト層が見ら れ、すぐに約15cmの裡層 になる。

2-2-2 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設事業に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 甲府市白井町地内、笛吹市石和町広瀬・唐柏・小石和・井戸地内

事業名 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設事業

調査期間 2022年6月3日～20日、8月1日～12日、8月24日～31日、11月8日～11日・14日・15日・17日、11月21日～12月2日

調査面積 約 1.820m²

担当者 正木季洋・數野優・高野玄明・岩永祐貴・内田祥一・秋山浩文・秋山富喜雄・深沢鉄朗

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期工事は、甲府市落合町から笛吹市石和町広瀬に至る総延長 5.5kmに及ぶ道路の整備事業である。I 期工事とされる甲府市西下条町から小曲町付近の区間について平成 25 年度に事業化されている。II 期工事について、事業用地が広大であることから、文化振興・文化財課、新環状道路建設事務所と定期的に協議を行い、用地取得が済んだ事業予定地について順次、試掘・確認調査を実施している。埋蔵文化財センターでは、平成 29 年度より当事業において試掘・確認調査を実施している。令和元年度より北畠南遺跡をはじめとして、工事区間沿いで次々と確認されている。

今回の試掘調査地域は、笛吹川西側の氾濫原に位置し、ほぼ平坦な地形である。微地形は、河川氾濫が形成する自然堤防と旧河道により構成され、笛吹川によるシルト層や砂層の堆積と、当地域を西南に流れる数條の小河川の浸食や粗粒土壤の堆積が繰り返されて形成されたものである。当地域では、自然堤防が形成する微高地を中心に集落が展開する。

【新 1 地点】

小石和から広瀬までの区間に 16 本のトレンチを掘削し、土層堆積状況を調査したところ、基本的に耕作土下に河川堆積と考えられる砂礫層が厚く堆積しており、出土した土器片も摩耗していることから河川による流れ込みと思われる。一方、唐柏地区及び広瀬地区では中世の遺物を多量に含む包含層やその直下に土坑が検出された。

【新 2 地点】

耕作土直下は近現代の搅乱を受け、以下は河川堆積による砂層が地表下約 3 m 以上まで堆積しているのみであり、いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認されなかった。

【新 3 地点】

いずれのトレンチも地表下おおよそ 1.3 m 付近まで耕作土と造成土であり、いずれも下層は粗砂層や細砂層が交互に堆積していた。調査の結果、近世の陶磁器や平安時代末から中世後半までの土器片、柱状高台が出土した。また、この地点では各トレンチからこれらの土器が出土した遺物包含層とともに、φ 5 0 の土坑や完形に近い土師器皿を含む土器集積遺構が検出された。確認したこれらの遺構・遺物は調査範囲の一部分から検出され、これから追加調査で明確に範囲を確定させる必要がある。

【新 4 地点】

石和町の河内地内、小石和地内、広瀬地内において試掘調査を行った。各地点とも最大 GL-0.75m まで耕作土や造成土が堆積し、その直下は砂層が厚く堆積していた。さらに下には黒色粘性土が堆積しており、遺構及び遺物は確認されなかった。

【新 5 地点】

7 本のトレンチを設定し調査したところ、基本的に同じ層序であった。表土や埋め土の直下は砂層もしくはシルト層が厚く堆積するのみであり、遺構及び遺物は出土しなかった。

以上により、新 1 地点の唐柏地区及び広瀬地区については埋蔵文化財の保護措置が必要と判断した。新 3 地点においては、調査地点南西側は本調査が必要であるが、中央については遺構・遺物が確認されず、保護措置は不要であると考える。北東側においては、遺構・遺物が確認されているため今後の追加調査の結果と合わせて判断することとした。一方、その他の地点などは不要とした。

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事全体位置図



2-2-3 中央新幹線都留保守基地建設工事事業に伴う試掘調査（包蔵地外）

所在地 都留市小形山地内

事業名 中央新幹線都留保守基地建設工事

調査期間 2022年9月26日～9月30日、2023年2月6日～2月8日

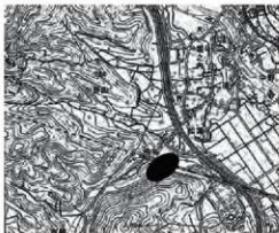
調査面積 約 163.5m²（対象面積 5,010m²）

担当者 正木季洋・上野桜・高野玄明・秋山富喜雄

調査地点は桂川左岸の山裾部に位置し、周辺には、縄文時代中期、晚期の中谷遺跡、中溝遺跡、奈良～平安時代の堀之内原遺跡が存在する。当該地に中央新幹線の保守基地を建設するためあらかじめ試掘調査を行うこととなった。

9月の調査では10本のトレチを調査したところ、山側で黒褐色土中から縄文時代中期の遺構や遺物が確認された。山裾部の平坦部では時期不明の褐土を掘り込む遺構が検出した。また、2月の調査では7本のトレチを調査したところ、帰属時期は不明であるが、土坑1基と溝状遺構が確認された。

令和3年6月と11月には今回の調査区南西側において、同事業に伴う試掘調査を実施し、結果、縄文時代の遺物や遺構、中世の遺構等が確認されていたことから、包蔵地の範囲がさらに北まで広がっていることがわかった。昨年度の試掘結果と今回の試掘結果を踏まえ、調査区周辺部は本発掘調査の対応が必要となり、調査対象も中世、縄文時代（中期を中心に後期、前期末）と多岐にわたるため、調査期間等、事業者との協議を十分に行う必要がある。



調査地点位置図

2-2-4 甲府警察署甲府駅前交番改築工事に伴う試掘調査（包蔵地外）

所在地 甲府市丸の内一丁目1番9号

事業名 甲府警察署甲府駅前交番改築工事

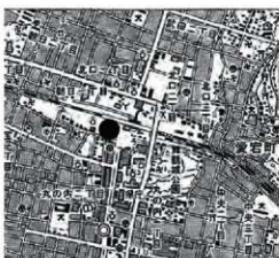
調査期間 2022年4月21日～22日

調査面積 約 3m²（対象面積 65m²）

担当者 正木季洋・久保田健太郎・佐藤孝志

甲府警察署甲府駅前交番改築工事がおこなわれる甲府駅南口の西側付近は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内にあり、江戸時代には柳沢家老屋敷などの武家屋敷地にあたることから、試掘調査を実施することとなった。結果、地表直下の鉢石層以下は現代から近代までの造成土層が見られ、造成土層中から瓦片が出土したが遺構は確認されていない。

平成27・28年度に今回の調査対象地の南側約30mで実施した発掘調査では、造成土下に近世の遺物包含層が堆積しており、今回の調査地点も同様の堆積であると思われる。工事における最大掘削深度は地表下1.3mであることをふまえると今回の地点においては遺物包含層より30cmの保護層が確保されることから、保護措置は不要と判断される。しかし、工事時の不時発見に備え、掘削時に文化財専門職員による立会調査が必要と判断される。



調査地点位置図

2-2-5 富士技術支援センターイノベーション支援棟(仮称)建設工事に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 富士吉田市下吉田六丁目16番2号

事業名 富士技術支援センターイノベーション支援棟(仮称)建設工事

調査期間 2022年5月12日

調査面積 約11.4m²(対象面積850m²)

担当者 正木季洋

調査地点は富士山から流下した溶岩や土石流によって形成された火山扇状地上にあり、周囲には友屋敷遺跡や下吉田新屋敷等の周知の埋蔵文化財包蔵地が分布することから、埋蔵文化財の不時発見に備え試掘調査を実施することとなった。

調査は2本のトレチを設定し、重機によって慎重に掘り下げを行い、トレチの壁面、床面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

造成土層下には径10cm以下の円礫を主体とする礫層が堆積し、さらに下には旧耕作土層とみられる層が堆積していた。その下に黒色スコリアの純層、黒褐色土層が確認され、さらに下層には溶岩が確認された。いずれの土層中からも遺構・遺物は確認されていない。

調査の結果、各トレチから遺構や遺物の確認はできなかった。このため、今回の事業における埋蔵文化財の保護措置について、問題ないものと判断できる。



調査地点位置図

2-2-6 国道411号和戸アクセス道路建設工事伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 甲府市和戸町415-3、415-11、421、423-1

事業名 国道411号和戸アクセス道路建設工事

調査期間 2022年5月23日～25日

調査面積 約62.1m²(対象面積2,156m²)

担当者 正木季洋、深沢鉄朗

調査地点は、甲府盆地の北縁、南北に延びる甲府市のほぼ中央部に位置する。調査地点の北側には大坪遺跡等の古代から中世の遺跡が集中し、南側には富士塙古墳等の古墳が点在する地域である。当該地に国道411号が延長するため、埋蔵文化財の不時発見に備え、試掘調査を実施することとなった。

6本のトレチを重機によって慎重に掘り下げを行い、トレチの壁面、床面を精査し、遺構・遺物の有無を確認したところ、どのトレチにおいても、造成土層以下は褐色や黒褐色等の粘質土層が見られたものの、遺構や遺物が存在する土層は確認できなかった。

よって、今回の対象範囲からは遺構・遺物の確認はできず、埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと思われる。しかし、周辺地域においては遺跡の密集地であることから、今後も東側における事業予定地の試掘調査を積極的に行うなど、継続的な調査が必要であると考えられる。



調査地点位置図

2-2-7 大泉駐在所改築工事に伴う試掘調査（城上第3遺跡）

所在地 北杜市大泉町谷戸字城上 2966 番 1

事業名 大泉駐在所改築工事

調査期間 2022年8月5日

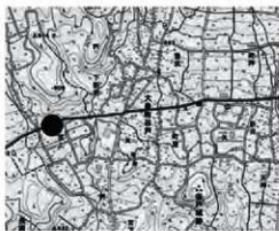
調査面積 約 3m² (対象面積 231.48m²)

担当者 久保田健太郎

山梨県警察本部会計課が計画する北杜市内における大泉駐在所改築工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地城上第3遺跡の一部が掘削されることになったため、試掘調査を実施することになった。調査は既存建築物の撤去工事の一環で実施したため、既存の配管に干渉しない限定的な範囲での調査となった。

調査対象地は北側に位置するハケ岳を最高標高点として南側に向けて傾斜している。よって、調査対象地南側は傾斜を解消するための盛り土が明く形成していることが予想された。現地表下80cmまでは盛り土層、下層を削平して形成していた。それ以下はローム層となり、底面は岩盤であった。ローム層は岩盤付近で疊合有量が多くなる。なお、遺構・遺物は発見されなかった。

今回の試掘調査では、当該地点における過去の土地変更に伴い、黒色土が存在しておらず、埋蔵文化財は確認できないことが明らかとなった。のことから、試掘調査対象範囲については工事を進める問題ないと判断される。



調査地点位置図

2-2-8 県立青少年センター運動場芝生整備事業に伴う試掘調査 (桜井畑遺跡)

所在地 甲府市川田517番地

事業名 県立青少年センター運動場芝生整備事業

調査期間 2022年9月5日～9月7日

調査面積 約 12.6m² (対象面積 4,030m²)

担当者 正木季洋・高野玄明

県立青少年センター運動場芝生整備事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である桜井畑遺跡が存在していることから、試掘調査を実施することになった。

調査地点は、1988年、1989年に桜井畑A・B・C遺跡として発掘調査が行われ、古墳時代前期～平安時代に至る遺構や遺物が確認されている。今回の調査は、青少年センター運動場にあたり、給水・電気設備の埋設部分に0.15mクラスの重機により掘り下げを行い、トレンチ内部の壁面、床面を人力により精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチは、事業地内の運動場内に幅1.2m、長さ2.1～2.3m、深さ0.85～1.3mの規模で5本設定し、調査を実施した。

トレンチからは、地表下0.4～0.7m程度黒色粘質土が確認され、その黒色土中に古代～平安時代の土器片及び該期の遺構が確認され、その下部には黄褐色の砂質土が確認されている。

調査の結果、1988年、1989年に行われた発掘調査と同様な地層や深さから、遺構や遺物が確認できている。このため埋蔵文化財の対応は必要となるが、今回の事業は、運動場の芝生張り替えに伴う埋設管敷設工事のため、掘削幅は極めて狭小であり、深さも0.8mと限られるため、工事着手時には専門職員の立会を行うこととした。



調査地点位置図

2-2-9 一般国道138号新屋拡幅工事に伴う試掘調査（包蔵地外）

所在地 富士吉田市上吉田22-1、30-3、31-1、34-1、40-1、

41-1、44-1番地

事業名 一般国道138号新屋拡幅工事

調査期間 2022年10月17日・18日、2023年2月20日・21日

調査面積 約30.9m²（対象面積1.015m²）

担当者 数野 優・高野玄明・秋山富貴雄

富士吉田市は、県の南東部に位置し、富士山北麓の扇状に広がる緩傾斜の高原地帯を占める。調査地点である上吉田地内は、富士山噴火により供給された土砂が裾野に堆積した火山麓扇状地上、標高850m付近に立地する。

調査は、0.15mクラスの重機により慎重に掘り下げを行い、トレンチの壁面、

床面を人力により精査し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチの規模は、幅1.2～1.6m、長さ3.2～4.8m、深さ1.2～2.15mを測るトレンチを6本設定し、調査を実施した。今回の調査区では、宿場町や街道関連の遺跡も示唆されたが、特に浅い部分における遺構や遺物の確認はできなかった。トレンチ内には富士山噴火による純粹な火山灰（スコリア）ではなく、黄褐色や褐色、暗褐色や黒褐色の土砂混じりのスコリアが確認できた。地表下0.65～1.0m付近では、溶岩本体ではないものの、非常に固く締まった硬化面がみられた。

今回の調査地点において、遺構や遺物の確認はできなかった。このため、埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと思われる。



調査地点位置図

2-2-10 急傾斜地崩落対策工事に伴う試掘調査（御座田遺跡）

所在地 蕨崎市竜岡町下条南割1953-1

事業名 急傾斜地崩落対策工事

調査期間 2022年10月20日～24日、11月17日～18日

調査面積 約9m²（対象面積6,000m²）

担当者 岩永祐貴・秋山浩文

山梨県中北建設事務所駿北支所が計画する急傾斜地崩壊対策工事に伴い、龍岡台地上から東側の崖にかけて工事をすることになった。当地点は窯業遺跡である御座田遺跡の包蔵地内であり、傾斜地には窯本体や、周間に窯へアクセスするための道も想定できる。今回はその傾斜地で人力掘削による調査を行った。

モノレールの基礎に合わせて5本のトレンチを設定した。どのトレンチでも表土

の下に2次堆積と考えられる地層を認めた。2次堆積層の下も表土下に風化した花崗岩から成る岩盤層を検出したのみで、遺物の出土もなく、窯の本体と考えられる硬化した土も認められなかった。

今回の試掘調査では、保護対象となる遺構・遺物が認められなかつたことから、工事を進めても問題ないものと判断される。



調査地点位置図

2-2-11 一般国道358号遠光寺北交差点改良事業に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 甲府市伊勢一丁目地内

事業名 一般国道358号遠光寺北交差点改良事業

調査期間 2022年10月26日

調査面積 約4.3m²(対象面積32.0m²)

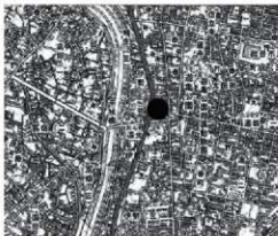
担当者 高野玄明・秋山富貴雄

国道358号遠光寺北交差点は県道甲府笛吹線と交差しているが、交差点の前後で下り車線が2車線から1車線に縮小し、朝夕に著しい渋滞が発生し、県内の主要渋滞箇所である。このため、交差点前後350m、甲府駅方面の車線を1車線から2車線への改良事業が計画され、用地取得された一部を試掘調査することになった。

調査は、0.15mクラスの重機により慎重に掘り下げ、トレーナーの壁面、床面

を人により精査し、遺構・遺物の有無を確認した。トレーナーの規模は、幅1.2m、長さ3.6m、深さ1.6mのトレーナーを1箇所設定し、調査を実施した。

その結果、地表から0.45m程、碎石等の造成面、第2層に黄褐色が0.35m、第3層には明黄褐色の砂質土が0.40m程堆積、第4層に褐色の粘質土が0.2m程確認され精査を行ったが、遺構や遺物の確認はできなかった。第5層は灰色砂質土(粗砂)が厚く堆積している。今回の調査地点において、旧堤防の痕跡も示唆されたが、遺構や遺物の確認はできなかった。しかし、調査地点の東側約100m付近には伊勢町遺跡(古墳)、食料工場遺跡(縄文～弥生)が存在しており、今後、拡幅部分において用地の確保ができた段階で、順次、積極的に試掘調査を実施していく必要がある。



調査地点位置図

2-2-12 切石地区築堤護岸工事に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 南巨摩郡身延町切石265-2

事業名 切石地区築堤護岸工事

調査期間 2022年10月31日～11月1日

調査面積 約30m²(対象面積1,300m²)

担当者 岩永祐貴・秋山浩文

国土交通省が計画する切石地区築堤護岸工事に伴い、身延町切石地区の一級河川富士川の築堤工事をすることになった。当該地点は、南北を山に囲まれ谷底平野で、国道52号が通っている付近が、周辺に比べて微高地になっていることから、当該地に船着き場などが形成される可能性が高いと推察され、試掘調査を行うこととした。

調査の結果、表土下は現代の水田層、逆級化した洪水堆積層、径5cm台

の円礫を含む粘質土、河床と思われる径約1mの巨礫と堆積していた。しかし、人為的な痕跡は認められず、遺構及び遺物も確認できなかった。

今回の試掘調査では、遺構・遺物が認められなかつたことから、工事を進めても問題ないものと判断される。ただし、絵図と周辺地形から、国道52号線周辺では埋蔵文化財が存在する可能性が高いため、周辺の工事予定範囲においても、試掘調査を継続する必要がある。



調査地点位置図

2-2-13 道の駅富士川駐車場整備事業に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 南巨摩郡富士川町青柳町地内

事業名 道の駅富士川町駐車場整備事業

調査期間 2022年11月24日～12月2日、2023年1月10日～16日

調査面積 約475.7m² (対象面積8,456m²)

担当者 上野 桜・高野玄明・秋山富貴雄

富士川では舟運が発達し、特に甲州三河岸として青柳河岸、駿河河岸、黒沢河岸が知られ、年貢米の輸送を主な役割として担い、長年、物資や人々の移動手段として、JR身延線の開通後も、規模は縮小しながら継続していた。調査区西側に位置する町屋口遺跡は平成10年度、平成21年度に県や市で調査が行われ、青柳河岸に通じる「河岸御藏道」や水路跡等、さらに近世の水田跡が確認されている。



調査地点位置図

試掘調査は0.25mクラスの重機により、幅1.5～2.7m、長さ3.1～13.8m、

深さ0.9～2.0mのレンチを25本設定し、人力による精査作業及び記録作業を行った。

その結果、8-10・11・13・14・16号レンチから、地表下8-10m程の灰黄褐色砂質土の直下に小砾と粘土で構築されたカマボコ状で非常に硬さのある、「河岸御藏道」が確認され、事業地内に長さ約75m程続いていることが確認された。しかし、遺構に伴う遺物の確認はできなかった。

また、南西側隅に設定した18号レンチの地表下1.3m程でにぶい黄褐色粘質土を掘り込む形で「水路跡」が確認され、水路幅は約1.73m、板材を使用し、それを補強する形で水路の内側に約0.8m間隔で木杭が見られる。水路は南北方向、35m程北側に続き調査区外へと延びる。また、9・20・21号レンチからは、幅1.6m程の溝状の落ち込みが確認されたが、詳細は不明である。

今回の調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である「青柳町町屋口遺跡」に続く河岸御藏道や水路が確認されたことから、遺跡の範囲変更(法95条)を行っている。これにより、今回の試掘調査地点について埋蔵文化財に関する対応が必要である。

2-2-14 甲府中央右左口線1号線アクセス道路建設工事に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 甲府市大津町地内

事業名 甲府市中央右左口線1号線アクセス道路建設工事

調査期間 2022年12月5日～8日

調査面積 約140m² (対象面積9,140m²)

担当者 岩永祐貴・秋山浩文

山梨県中北建設事務所が計画する(主)甲府中央右左口線1号線アクセス道路の建設工事に伴い、甲府市大津町地内を工事することになった。該当地点の西側約600mでは中世の遺構が検出されていることから、中世の遺跡が埋蔵している可能性があるため試掘調査を行った。



調査地点位置図

16本のレンチを設定、調査したところ、5～13号レンチでは、中世(15世紀)

と考えられる水田跡を検出した。東西方向に延びる畦畔を8号レンチと11号レンチで認めた。畦畔を形成するシルト層は、炭化物を多く含み、15世紀と考えられるかわらけや鉢を包含する。しかし、畦畔が確認された層は中央道の北側では認められなかつた。

今回の試掘調査では、15世紀の水田跡を検出したため埋蔵文化財の保護措置が必要と考えられる。また、南北方向に広い範囲で遺跡が広がっていると想定されるため、試掘調査を継続して実施し、遺跡範囲を適切に把握することが必要である。

2-2-15 国道52号上石田道路改良事業に伴う試掘調査(包蔵地外)

所在地 甲府市富竹一丁目地内

事業名 国道52号上石田道路改良事業

調査期間 2023年1月30日～2月2日

調査面積 約27.12m²(対象面積約4,600m²)

担当者 正木季洋・上野桜・高野玄明

国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所による国道52号の上石田道路改良事業が計画され、上石田一丁目～富竹一丁目までの約0.25kmの事業用地にて工事が行われる。当該地の周辺には上石田遺跡(縄文・中期集落跡)、上石田B遺跡(平安・散布地)が所在し、近世の甲州街道に関連する遺構(道路、集落跡)があることが想定されたため、事業者との協議により試掘調査を実施することになった。

調査では、幅1.0～1.6m、長さ2.1～4.8mのトレンチを7本設定し、0.15mクラスの重機により1.1～2.1mの深さまで掘削、トレンチの壁面、床面を人力により精査し、遺構・遺物の有無を確認した。土層堆積状況は、地表下0.6m程度まで造成土、0.8mまで近現代の耕作土とみられる褐色灰色砂質土、1.05mまで灰黄褐色砂質土、それ以下は砂礫層がみられた。また南北方向に設定したトレンチでは中央より南側の各層が、北側の各層より下がっており、北側に高まりがある状況を確認した。各トレンチとも遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、遺構・遺物の確認はできず、埋蔵文化財の保護措置は不要であると判断した。しかし、旧甲州街道(国道52号)近接地および、国道52号の北側の用地において、地形上の高まりが見られることから引き続き試掘調査を実施する必要がある。



調査地点位置図

2-2-16 濁川流域グラウンド貯留施設工事に伴う立会調査 (山梨大学遺跡・武田城下町遺跡)

所在地 甲府市大手二丁目1番地

事業名 濁川流域グラウンド貯留施設工事

調査期間 2022年4月5日

調査面積 約180m²

担当者 正木季洋

山梨県県土整備部が計画する濁川流域グラウンド貯留施設工事はグラウンド西辺と南辺に沿って自重式擁壁が設置される計画である。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である山梨大学遺跡および武田城下町遺跡の範囲内であるが、グラウンド建設にあたって北側は切り土、南側は盛土造成がおこなわれており、造成土中で行われる予定である。しかし、グラウンド西辺中央部付近は造成土厚が薄いものと想定され、掘削により埋蔵文化財の破壊のおそれが生じることから、工事立会を実施することになった。

立会調査の結果、工事による掘削は造成層である黒褐色粘質土層中にとどまり、遺構・遺物の存在は確認できなかった。よって、今回の工事立会は造成土層中の掘削であり、工事を進めて問題ないものと判断される。ただし、当該地にはさらに下層に埋蔵文化財が存在する可能性があるため、引き続き、掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



調査地点位置図

2-2-17 舞鶴城公園植栽事業に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目49番地

事業名 舞鶴城公園植栽事業

調査期間 2022年5月28日

調査面積 約60m²

担当者 野代恵子

工事箇所は、屋形曲輪の東側の堀外の稻荷曲輪西端にあたる箇所であり、江戸時代中期の『東只堂年録』には堀外の土手や南北方向の道があつた位置であることが想定される。近代以降に城内へ入る通路が設置されており、舞鶴城公園が作られるなど大きく変更が加えられている場所である。

施工内容は、既設の花壇内の土壤をすき取った後、その上に防草シートを敷き、砕石を入れてならすものであり、すき取り土壤は花壇設置時に撤入されたものであることから新たな掘削箇所は生じなかった。

今回立会を行った施工範囲においては、新規掘削は生じなかったことから、地下遺構への影響はなく、史跡の保護上問題はないものと判断した。



調査地点位置図

2-2-18 曽根丘陵公園照明設備改修工事に伴う立会調査(岩清水遺跡)

所在地 甲府市下向山地内

事業名 曽根丘陵公園照明設備改修工事

調査期間 2022年5月30日~6月1日

調査面積 約9m²

担当者 正木季洋、深沢鉄朗

山梨県県土整備部により曾根丘陵公園内の照明設備改修工事が計画され、既存照明の撤去および同地点での新規設置がおこなわれることになった。このうち、考古博物館構内古墳、岩清水遺跡、史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳に近接している照明6基を対象に立会調査を実施することになった。

立会調査で土層の断面観察と遺構や遺物の確認を行ったところ、いずれの地点でも腐植土層および既存照明基礎掘削範囲内の掘削であり、遺構や遺物の存在は確認できなかった。

今回の工事による掘削は保存されている遺構に影響がなく問題ないと判断できる。しかし、曾根丘陵公園内には周知の埋蔵文化財埋蔵地が多数存在しているため、引き続き、公園内の掘削を伴う開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



調査地点位置図

2-2-19 甲府警察署甲府駅前交番改築工事に伴う立会調査(甲府城下町遺跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目1番9号
事業名 甲府警察署甲府駅前交番改築工事
調査期間 2022年6月10日、2023年3月30日
調査面積 約26m²（対象面積約65m²）
担当者 正木季洋・高野玄明

甲府警察署甲府駅前交番改築工事が行われる甲府駅南口の西側付近は、江戸時代には柳沢家家老屋敷などの武家屋敷地にあたる甲府城下町遺跡の範囲内であることから、2022年4月に試掘調査を実施し、地表下1.6m以下に近世の遺物包含層があると推定された。しかし工事により30cm以上の保護層が確保されることから発掘調査による保護措置は不要となった。しかし、工事時の不時発見に備えて建物掘削時と基礎掘削時に立会調査を実施することとした。

調査の結果、現代から近代までの造成上層が確認でき、城下町遺跡に関する遺構や遺物の検出には至らず、埋蔵文化財の保護措置は必要無いものと判断した。



調査地点位置図

2-2-20 県庁噴水広場芝生化工事に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所在地 甲府市丸ノ内一丁目6番地1号
事業名 県庁噴水広場芝生化工事
調査期間 2022年6月22日～27日
調査面積 約70m²
担当者 正木季洋

山梨県総務部資産活用課により、史跡甲府城跡内にある県庁噴水広場周辺において芝生化工事が行われることとなり、散水施設設置のための工事掘削にあわせて立会調査を実施した。

立会調査により、平成26年度に実施した発掘調査により確認した石垣のほか、2基の礎石を確認した。この礎石付近は甲府城追手門西側の番所推定地にあたり、確認された礎石も番所に伴うものの可能性がある。

今回確認した遺構はすべて埋設保存することとなったが、県庁構内には他にも数多くの甲府城に関連する遺構が埋設保存されているため、引き続き、県庁構内において掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



調査地点位置図

2-2-21 笛吹高校農場防犯灯改修工事に伴う立会調査(狐原遺跡)

所在地 笛吹市石和町中川1307地内

事業名 笛吹高校農場防犯灯改修工事

調査期間 2022年8月22日

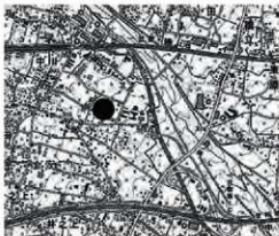
調査面積 約2.0m²

担当者 高野玄明

調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡に含まれる地点で、周辺には、古墳時代～平安時代の遺跡が数多く分布している地域である。

立会調査は、笛吹高校付属農場内の防犯灯改修工事に伴うもので、今年度は2ヵ所の防犯灯の改修が行われることから、必要深度まで掘削を行う中での断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行った。

この結果、暗褐色とびい黄褐色砂質土が見られ、それ以下は小礫が混じる褐色の砂礫層が確認され、遺構や遺物の検出には至らなかった。



調査地点位置図

2-2-22 笛吹高校農場止水弁バルブ取替工事に伴う立会調査(狐原遺跡)

所在地 笛吹市石和町中川1304

事業名 笛吹高校農場止水弁バルブ取替工事

調査期間 2022年8月29日

調査面積 約1m²

担当者 正木季洋

笛吹高校付属農場内は、甲府盆地の東部、笛吹川の支流である金川の扇状地に位置し、給水バルブ取替工事が行われることになったが、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡に含まれるために、立会調査を行った。

調査の結果、地表下0.7mまでは、既存給水バルブ設置時の埋土である黒褐色土が堆積し、それより下はコンクリート底板であった。遺構や遺物の確認はできなかった。

立会調査結果から、遺構・遺物の確認はできなかったため、工事の施工に問題はない。しかし、事業地及び事業周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内であることを踏まえ、掘削等が伴う開発事業がある場合は、協議を十分に行う中で埋蔵文化財の保護措置を行っていく必要がある。



調査地点位置図

2-2-23 釜無川スポーツ公園改修整備工事に伴う立会調査(信玄堤)

所在地 甲斐市竜王 2256

事業名 釜無川スポーツ公園改修整備工事

調査期間 2022年9月14日

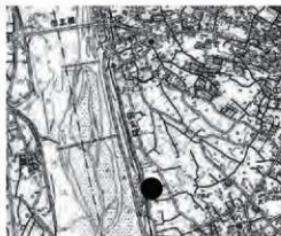
調査面積 約1.14m² (対象面積933m²)

担当者 岩永祐貴

山梨県県土整備部が計画する釜無川スポーツ公園改修整備工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である「信玄堤」の範囲内を工事することになった。

釜無川スポーツ公園内のドッグランの整備に伴い横の基礎を設置するため、横の折れ点の8ヶ所で立会調査を実施し、土層の観察と遺構や遺物の確認を行うこととした。結果、堤防側では粒径の大きい岩石を含んだ粗砂層であり、旧堤防側は礫を含まない細砂の堆積が認められたのみであり、遺構・遺物の存在は確認できなかった。

今回の工事立会では遺物が認められず、想定される堤防跡の構造も確認できなかった。このことから、工事を進めても問題ないものと判断される。



調査地点位置図

2-2-24 産業技術センター高度技術開発棟他解体工事に伴う立会調査 (包蔵地外)

所在地 甲府市大津町2094

事業名 産業技術センター高度技術開発棟他解体工事

調査期間 2022年11月21日、12月2日

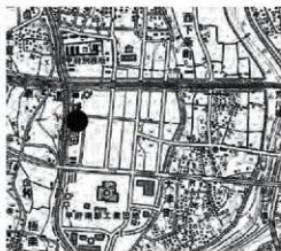
調査面積 約700m²

担当者 正木季洋、高野玄明

産業技術センター高度技術開発棟他解体工事が行われることになったが、事業地点の隣接地で実施した中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う試掘調査において、地表下約80cmの深さより中世の烟跡及び柱穴等が確認されている。このことから、工事に伴い立会調査を行うことになった。

立会調査の結果、高度技術開発棟や実験排水処理施設は既存建物により掘削されている状況であった。車庫及び薬品庫も同じ状況であったが、地表下1.1m以下に近世の磁器片が出土するオーリーブ褐色土層が堆積している状況を確認した。

今回の立会調査においては、中世以前の遺構・遺物の確認はできず、埋蔵文化財の保護措置は不要である。しかし、事業地は周囲より約1mの盛り土が施されており、地表下1.1m以下に近世の磁器片が出土する土層が確認されたことから、今回の立会調査対象外であった各建物間部分には埋蔵文化財が残存している可能性がある。よって、今後、掘削等が伴う開発事業がある場合は、協議を十分に行う中で埋蔵文化財の保護措置を行っていく必要がある。



調査地点位置図

2-2-25 県立青少年センター運動場芝生整備事業に伴う立会調査 (桜井畠遺跡)

所在地 甲府市川田517番地町地内

事業名 県立青少年センター運動場芝生整備事業

調査期間 2022年12月23日～28日、2023年1月6日～13日、26日

調査面積 約175.8m²

担当者 正木季洋・高野玄明

県立青少年センター運動場芝生整備事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である桜井畠遺跡が存在しており、2022年9月に本事業に伴う試掘調査を実施し、地表下0.4～0.7m程度で見られる黒色土から古代～平安時代の土器片や遺構が確認されている。埋設管設置工事という狭小な範囲での掘削になることから、掘削時における立会調査を行うことになった。

この結果、一部造成による擾乱を受けていたが、黒色粘質土中に古代～平安時代の土器片が確認されており、敷地内及び周辺での開発工事を行う際には、引き続き注意が必要である。



調査地点位置図

2-2-26 釜無川スポーツ公園改修整備工事に伴う立会調査(信玄堤)

所在地 甲斐市竜王2256

事業名 釜無川スポーツ公園改修整備工事

調査期間 2023年1月16日、31日

調査面積 約2.6m²

担当者 正木季洋

山梨県県土整備部が計画する釜無川スポーツ公園改修整備工事において、釜無川スポーツ公園内の遊具施設の老朽化に伴い、既存の遊具を解体し、同一箇所に新設する。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「信玄堤」の範囲内である。

改修予定遊具施設の内、信玄堤に近接するダブル踏み台昇降およびゆらぐら渡りの二地点を対象とし、基礎掘削時に埋蔵文化財センター職員が立ち会うことになった。

両地点とも、地表下0.8mまでの掘削であり、0.1～0.3mの厚さで堆積する表土層下は河川堆積層である中粒砂・粗砂層が堆積しており、堤防跡とみられる版築や石積みの痕跡等や、遺物の確認はできなかった。

今回の工事立会では遺物や、想定される堤防跡の構造も確認できなかったことから、工事を進めても問題ないと判断される。



調査地点位置図

2-2-27 史跡甲府城跡数寄屋曲輪塗喰堀控え木改修工事に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目地内

事業名 史跡甲府城跡数寄屋曲輪塗喰堀控え木改修工事

調査期間 2023年1月23日～2月9日

調査面積 約20m²

担当者 中村有希

舞鶴城公園(数寄屋曲輪箇所)の塗喰堀の控え木は平成12年に設置されたもので、経年劣化により腐食しているため、改修することとなった。控え木の改修は既設と同位置に設置されるが、掘削を伴うため立会調査を行うことになった。

今回は人力によって控え木42本の基礎部を掘削するところに立会ったところ、ほとんどの地点で表土の下は碎石や拳大の石混じりでしまりのない褐色粘質土であった。控え木No.26においては、地表下10cmにおいて、繭が混ざるしまりのない黒褐色粘質土を、また、その下にはしまりのある黄褐色粘質土が確認された。しまりのある黄褐色粘質土は、これまでの調査で確認された構の版築層に対応する可能性があり、黒褐色粘質土は近現代の層と考えられる。今回の掘削は黄褐色粘質土の直上で留まった。よって、全ての立会箇所において、遺構等は検出されず、遺構に影響はないものと判断した。



調査地点位置図

2-2-28 県庁舎北別館バスポートセンター改修工事に伴う立会調査(甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目地内

事業名 県庁舎北別館バスポートセンター改修工事

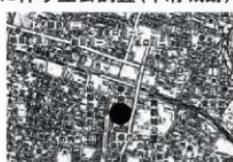
調査期間 2023年1月23日

調査面積 約4.2m²

担当者 高野玄明

バスポートセンター改修に伴い、県庁舎北別館正面玄関東側端への配管敷設のため、幅0.8m、深さ0.6～0.7m、長さ6.0mの掘削と、電灯設置箇所の深度さが1.3mに及ぶことから立会調査を実施した。

調査の結果、0.7mの掘削の範囲内では、既存による掘削の埋土の範囲内であったが、1.3mの電灯設置箇所から石垣石材らしき石材が1点確認されだが、埋土の範囲で既に動かされており、確認された石材は隣接する既存掘削部分へ埋設保存することとした。



調査地点位置図

2-2-29 御勅使南公園施設改修工事に伴う立会調査(御勅使川堤防址群)

所在地 南アルプス市六科1588-2地内

事業名 御勅使南公園施設改修工事(水飲み場)

調査期間 2023年1月24日

調査面積 約1.7m²

担当者 高野玄明

水飲み場設置箇所について、1.3m×1.3m、深さ0.9mの範囲での掘削が行われた。旧堤防址の裾部分にあたるが、掘削深度が0.9mであり暗褐色粘質土の客土と、その下部には碎石層がみられる等、公園造成の既存掘削の範囲内であり、旧堤防址に関する石積みなどの痕跡は見られなかった。



調査地点位置図

2-2-30 桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事に伴う立会調査(牧野遺跡)

所在地 上野原市四方津地内

事業名 桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事

調査期間 2023年1月30日

調査面積 約4m²

担当者 正木季洋

事業地点は、山梨県東部、桂川北岸の河岸段丘上地に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である牧野遺跡に含まれる地域である。



調査地点位置図

立会調査は、桂川流域下水道桂川2号幹線2条化建設工事に伴うもので、施工前の埋設物等確認のための試掘調査に伴い、必要深度まで掘削を行う中での断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行うこととした。

調査の結果、舗装アスファルト下は地表下1.55mまで既存埋設管・暗渠等による既掘の範囲であり、遺構や遺物の確認はできなかった。

今回の立会調査において、遺構・遺物の確認はできなかつたため、工事を進めても問題はない。

2-2-31 緑ヶ丘スポーツ公園屋外分煙施設工事に伴う立会調査(緑ヶ丘二丁目遺跡)

所在地 甲府市緑が丘二丁目地内

事業名 緑ヶ丘スポーツ公園屋外分煙施設工事

調査期間 2023年2月3日

調査面積 約30m²

担当者 正木季洋

立会調査は、緑ヶ丘スポーツ公園屋外分煙施設工事に伴うもので、屋外分煙施設と矢羽根サインの箇所について掘削の最中に断面観察や遺構・遺物の有無の確認を行うこととし、立会調査を実施した。



調査地点位置図

屋外分煙施設の地点は、アスファルト舗装下は現代の造成土層が堆積していた。工事はこの造成土層内の掘削に留まり、遺構・遺物は確認されなかつた。

矢羽根サインの地点は、地表下0.5mまで堆積する植栽造成土層の下に黒褐色粘質土層が堆積していたが、遺構・遺物は確認されなかつた。

今回の立会調査において、遺構・遺物の確認はされなかつたため、工事に着手しても問題はないと考える。しかし、周知の埋蔵文化財包蔵地である緑ヶ丘二丁目遺跡の範囲内のため、これからも当該地点を掘削する場合、事業者と注意して協議を行いう必要がある。

2-2-32 釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事に伴う立会調査(信玄堤)

所在地 甲斐市竜王 2256 地内
事業名 釜無川スポーツ公園屋外トイレ改築工事
調査期間 2023年2月7日
調査面積 約 9.0m² (対象面積約 30.5m²)
担当者 高野玄明

立会調査は、既存の屋外トイレ (39.0m²) を解体し、同一箇所に新たなトイレが建設 (30.5m²) されることから、既存トイレの基礎部分の撤去時に立会調査を実施することになった。

既存トイレの基礎は、地表下 1.3m で確認された。新設トイレの基礎は地表下 1.78m に及ぶことから、2.0m 程掘り下げた。既存トイレの基礎の下層には、粗砂に礫が混在するなどしていたが、堤防跡とみられる版築や石積みの痕跡等や、遺物の確認はできなかった。



調査地点位置図

2-2-33 風土記の丘曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事に伴う立会調査(上の平遺跡)

所在地 甲斐市下向山地内
事業名 風土記の丘曾根丘陵公園屋外分煙施設設置工事
調査期間 2023年2月8日
調査面積 約 11.9m²
担当者 高野玄明

立会調査は、屋外分煙施設の基礎、幅 2.6m、長さ 4.6m、深さ 0.6m の掘削部分について立会調査を実施した。確認された土層は、地表下 0.2m まで腐植土がみられ、その下部には公園造成による客土 (褐色粘質土) が確認された。掘削深度が 0.6m で、公園造成による客土の範囲内であったことから、今回の調査地点において、遺構や遺物の確認はできなかった。



調査地点位置図

2-2-34 市川大門郵便局建設工事に伴う立会調査(御陣屋遺跡)

所在地 西八代郡市川三郷町市川大門234番地5
事業名 市川大門郵便局建設工事
調査期間 2023年3月28日
調査面積 約 325m²
担当者 敦野優、内田祥一

当該地点では、新庁舎建設部分について 2022 年 3 月から 5 月まで発掘調査を行い、今回は既存廈舎の解体及び跡地での駐車場施工に伴う立会調査を実施した。

施工箇所の南西 1 箇所において地下状況を確認したところ、地表下 0.2m 付近までは既存建物のコンクリート基礎、0.7m 付近までは擾乱であり、その下層の中粒砂層では遺物や遺構は確認されなかった。

立会調査の結果、遺物や遺構は発見されなかつたこと、また、本来の土壤の大部分が以前の郵便局建設などにより搅乱され失われていたことから、今回調査した地点については、工事を継続して差し支えないと判断した。



調査地点位置図

3 発掘調査に係る統計

3-1 記録保存のための発掘調査

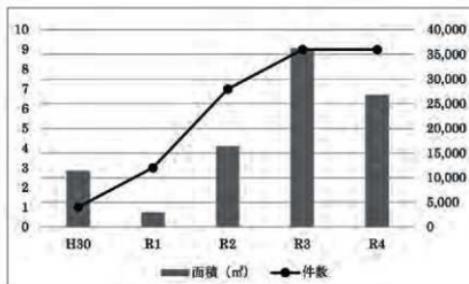
2022年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施した記録保存目的の発掘調査は9件である。その内訳は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事6件、新山梨環状道路建設工事1件、県立青洲高校建設1件、（都）和戸町竜王線街路整備及び一級河川濁川改修事業1件である。

過去5年間の推移をみると、2020年度より中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査が開始されたこと等により、調査件数及び調査面積が大きく増加している。2022年度は中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事のほか、新山梨環状道路等の大規模事業に伴う調査も加わっており、今後も事業量の増加が見込まれる。

過去5年間の記録保存のための発掘調査実績

年度	2018	2019	2020	2021	2022
件数	1	3	7	9	9
面積 (m ²)	11,400	2,956	16,405	36,183	26,816

※面積は、発掘調査を実施した実面積。



3-2 県内遺跡分布調査

2022年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施した開発事業に伴う試掘調査は32件、立会調査は19件である。試掘調査32件のうち、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事は12件、新山梨環状道路建設工事が5件と、大規模開発事業に伴う試掘調査が、その大半を占めている状況である。

過去5年間の推移をみると、2018年度は試掘調査・立会調査あわせて116件であったが、2019年度以降は60件前後で推移している状況にある。これについては、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事や新山梨環状道路建設工事等の大規模開発事業の用地取得の進捗したこと等より1件当たりの調査対象面積が増加したことによる。

過去5年間の試掘調査・立会調査実績

年度	2018	2019	2020	2021	2022
試掘調査	113	56	36	50	32
立会調査	3	3	8	18	19
合計	116	59	44	68	51

4 発掘調査環境整備

4-1 労働安全衛生教育講習

埋蔵文化財センター職員が、発掘調査・史跡整備等における作業に必要な労働安全衛生法に基づく各種資格を取得するため、建設業労働災害防止協会山梨県支部（建災防）と林材業労災防止協会（林災防）が実施する各種講習を計画的に受講している。2022年度は以下のとおり受講している。

受講内容	受講者数	受講者名
小型車両系建設機械特別教育	2	渡邊みずか、秋山浩文
不整地運搬車車運転技能講習	4	小高鉄平、渡邊みずか、佐藤孝志、桐部夏帆
車両系建設機械（整地等）技能講習	1	高左右裕
車両系建設機械（整地等）再教育	2	小林健二、上野桜
地山掘削、土止め支保工作業主任技能講習	2	岩永祐貴、佐賀桃子
刈払機取扱作業者安全衛生教育	1	中村有希
自由研削作業従事者特別教育	3	久保田健太郎、内田祥一、渡邊みずか
職長安全衛生責任者特別教育	2	野代恵子、御山亮済

4-2 発掘調査体制と労働安全の整備

近年、埋蔵文化財センターでは中央新幹線（品川・名古屋間）建設等の大規模開発に伴う発掘調査等、発掘調査事業量が年々増加しており、それに伴う調査体制の確保や調査の効率化、労働安全の確保が課題となっている。

調査体制の確保

調査体制においては、これまで職員2名により一つの発掘調査を担当していたところであったが、2020年度より大規模な発掘調査においては担当職員を3名配置し、より円滑な調査が実施できるよう体制を整えている。また、発掘調査に従事する発掘作業員においては、それまでの会計年度任用職員による任用に加え、2021年度より公益社団法人山梨県シルバー人材センター連合会より、作業員の派遣を受け、人材の確保を図っている。

調査の効率化

造構掘削等により発生した土については、これまで、発掘調査担当者がその運搬・処理にあたってきていた。令和4年度からは、それらの発掘調査環境整備業務を委託することにより、発掘調査担当者が発掘調査に成果の検討や記録、運営により専念できるように改善している。その他、これまでの職員による手測りによる測量や光波測距儀を使用した測量に加え、近年、写真測量による測量を多用することにより、記録作業の効率化を図ってきている。

労働安全の確保

近年では、低湿地や地表下2m以上の深々度での発掘調査が増加しており、それらにおける安全の確保が大きな課題となっできている。開発事業者の協力のもとにシートバイルを設置するほか、低湿地等の湧水が多く発生する地点の発掘調査では、排水溝や釜場設置に加え、フレコンバッグや単粒碎石等を敷設する等、地点毎の土質に合わせた方法を選択している。

また、担当職員による日常的な安全管理だけでなく、課長・リーダー等による現場安全パトロールを随時実施することにより、労働安全の精度向上に努めている。

第Ⅱ章 史跡資料活用業務

山梨が誇る出土品活用促進事業

ふるさと山梨文化財歴史発見事業（国庫補助事業）

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業

番号	イベント名	参加人数
1・1	マチナカ博物館（県立図書館）	196
1・2	見て見で触って昔の道具	331
1・3	ひらけ！玉手箱 2022～今年も楽しい石工体験～	47
1・4	県民の日イベント「めざせ！古墳マスター！」	76
1・5	甲府城青空教室	88

2 散策マップ作成とウォーキングイベント

番号	イベント名	参加人数
2・1	やまなし城・居館めぐりのスヌ・やまなし城知り！探検隊	-
2・2	私を古墳につれてって	15

3 教育現場への支援事業

番号	イベント名	参加人数
3・1	出前支援事業・考古資料貸し出し	1,077

4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等

番号	イベント名	参加人数
4・1	史跡甲府城跡植荷槽常設展	24,943
4・2	鉄門常設展	-
4・3	遺跡調査発表会	63
4・4	知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展 2023	1,545

山の洲山梨・静岡・長野文化財交流事業（地方創生推進交付金事業）

1 出張展示・体験イベント

番号	イベント名	参加人数
1・1	P R イベント（アピタ静岡）	829
1・2	ふじのくに文化財交流展（ワークショップ）	62
1・3	願いを込めて土偶を作ってみよう！	203
1・4	JOMON 溝屋やまなし	56
1・5	Jomon Cafe	167

整備事業に伴う調査

1 整備事業に伴う調査

番号	調査名地
1・1	史跡甲府城跡（内堀エリア）
1・2	史跡甲府城跡石垣維持管理事業

その他事業

1 その他事業

番号	事業名	参加人数
1・1	埋蔵文化財担当職員等研修会	49
1・2	発掘体験セミナー・遺跡見学会	602
1・3	「山梨の遺跡発掘展 2022」巡回展	1,175
1・4	広報誌「埋文やまなし」・研究紀要・年報	-

1・5	報告書リポジトリ	-
1・6	埋蔵文化財センター・考古博物館岐北収蔵施設	-
1・7	寄贈・購入図書	-
1・8	出張講座等	375
1・9	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	
1・10	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧	-
合 計		31,899

山梨が誇る出土品活用促進事業 ふるさと山梨文化財歴史発見事業（国庫補助事業）

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業

1-1 マチナカ博物館

日時：2022年8月12日（金）・13日（土）・14日（日）

参加人数：196名

会場：山梨県立図書館

内容：縄文時代の暮らしを体感することを目的とし、縄文お絵かき・採集・黒曜石試し切り・ボディーペイント・記念撮影ブースを設置して参加者に体験していただくイベントを開催した。また、静岡県の協力により静岡県の出土遺物を展示していただいたことで、時代や地域の違いを知っていただいた。



会場の様子



静岡県の展示の様子

1-2 来て見て触って昔の道具

日時：2022年5月3日（火）・4日（水）

参加人数：331名

会場：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園

内容：甲府盆地南部に広がる曾根丘陵に所在する県内最大の前方後円墳である銚子塚古墳をはじめとする、県内の貴重な文化財の活用の一環として、文化財を楽しみながら興味関心をもってもらうことを目的にイベントを実施した。開催地である曾根丘陵公園内に所在する史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳や上の平跡、岩清水遺跡等から出土した遺物のハンズオン体験を行った。また、ミニブースとして3日には須恵器の拓本体験、4日には文様付け体験を併せて行った。



ハンズオンの様子



文様付け体験の様子

1-3 ひらけ!玉手箱2022～今年も楽しい石工体験～

日時：2022年7月17日（日）

参加人数：47名

会場：史跡甲府城跡（舞鶴城公園南広場）

内容：史跡甲府城跡の最大の魅力である石垣の構造や構築技術を体験しながら学ぶことを目的に、山梨県石材技能士会の協力のもと、江戸時代と現代の工法を比較・体験できる内容とした。また、発掘調査を実施している内堀エリアのミニ現地説明会を開催し、最新の調査成果を解説・公開した。

【主な内容】

①石割り体験、②石の移動体験、③石の上げ下ろし体験、④石垣つめる君体験、⑤泥めんこ作り体験、⑥出土品・石工道具ハンズオン、⑦甲府城パネル展示、⑧甲府城跡内堀エリア発掘調査ミニ現地説明会



石割り体験



出土品・石工道具ハンズオン

1-4 県民の日イベント めざせ!古墳マスター!!

日時：2022年11月20日（日）

参加人数：76名

会場：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園

内容：ふるさと山梨文化財歴史発見事業の一環として、ウォークラリー形式で古墳を周ってもらうイベントを行った。

参加者には出土した副葬品についてのクイズや鏡を使ったパズルなどを体験してもらい、最後に郷民擁護碑を解説することで、地域によって守られてきた大切な古墳であることを理解していただいた。



かんかん塚古墳での様子



郷民擁護碑での様子

1-5 甲府城青空教室

史跡甲府城跡の石垣に使われている「野面積み」は、近世城郭の石積み技術史の中でも古い段階のものである。甲府城跡のような「野面積み」の石垣が良好に残る例は、全国的にも珍しい。2020年度より継続してきた甲府城石垣整備事業に伴う発掘調査などにより、石垣の内部構造も次第に明らかになってきている。このような背景を踏まえ、山梨県内外の小・中学校が実施している校外学習にあわせて、甲府城跡を実際に歩きながら埋蔵文化財センターの職員が、甲府城の歴史や石垣の価値をわかりやすく解説する事業を通して実施している。

2022年度は以下の日程で実施した。

実施日	学校名	人数
4月14日	身延町立身延中学校	47
5月11日	山梨県立富士見支援学校旭分校中等部	2
5月13日	甲斐市立竜王北中学校	18
5月21日	甲斐市立竜王中学校	21



甲府城青空教室

コロナウイルス感染症の感染拡大により校外学習の実施を見送る学校が多かった昨年に比べると、若干増加した。甲府城跡の稻荷曲輪・天守台石垣・鉄門などのスポットで解説を行なうが、石垣中の「兄弟石」を探す、天守台にのぼり甲府城下町を見渡すなど、説明だけに偏らない工夫をしている。参加した学校からは、「生徒・教職員ともに「知らないことを知ることができた」など、肯定的な評価が多かった。

2 散策マップ作成とウォーキングイベント

2-1 やまなし城・居館めぐりのススメ・やまなし城知ろ！探検隊

日時：2022年4月1日（金）～2023年3月18日（金）

内容：県下全域での埋蔵文化財をはじめとした文化財の活用を図るとともに、地域の文化財や歴史に興味を持っていただくことを目的として、2021年度から2023年度までの3箇年計画でウォーキングマップを作成しており、2022年度は2年目にある。年度ごとに対象地域を変えてウォーキングマップを刊行し、県内の城跡や居館跡、古戦場跡、寺社仏閣などを紹介する。

また、作成したウォーキングマップの対象地域を実際に歩きながら、歴史や文化財の魅力を解説する遺跡ツーリズムを企画した。

①ウォーキングマップ「やまなし城・居館めぐりのススメ～駿東・郡内編～」の作成

今年度は、駿東・郡内地域である富士吉田市・都留市・山梨市・大月市・笛吹市・上野原市・甲州市・道志村・西桂町・忍野村・山中湖村・鳴沢村・富士河口湖町・小菅村・丹波山村を対象に、中世の武将に因関する城や居館、寺社仏閣などを選定し、ウォーキングマップを作成した。

②「へいかざー！城知ろ探検隊！2」（雨天のため中止）

日時：令和5年3月18日（土）

申込人数：14名

ウォーキングマップで作成したルートの一つを使用し、都留市の勝山城・谷村町周辺を巡るウォーキングイベントを企画した。解説者として都留市教育委員会の文化財担当者に協力を依頼し、都留にゆかりの深い小山田氏や、近世の谷村城下町の解説を行う予定であったが、雨天のため中止とした。



やまなし城・居館めぐりのスヌヌ
～鉄東・郡内編～



掲載ルートの一部(都留市)

2-2 私を古墳についてって

日時：2022年12月17日(土)

参加人数：15名

内容：2020年度に作成した「ててっ！やまなし古墳・お宝マップ3」で紹介する「甲斐市赤坂台古墳群周辺ルート」の一部と甲州街道沿いに存在する文化財をウォーキングで巡るツアーを開催した。赤坂台地は多くの古墳が造られ、近世には甲州街道が通っていた場所だが、現在はいくつかの古墳が壊されてしまい、景観も大きく変わってしまっている。そのような場所で往古を偲ぶ文化財を巡り、文化財に対する知見や、地域への愛着を深めてもらった。



中株塚古墳見学状況



慈照寺見学状況

3 教育現場への支援事業

3-1 出前支援事業・考古資料貸し出し

山梨県内の子どもたちが郷土の歴史に親しみ、理解を深めるため、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教育機関と連携し、考古資料を活用した出前支援事業と考古資料の貸し出しを年通で実施している。

出前支援事業では埋蔵文化財センター職員が学校現場等へ「出前」と称して出向き、授業を支援した。内容は縄文土器作り・勾玉作り・火起こし体験・土器に触れる体験である。

考古資料貸出は、縄文時代から江戸時代までの土器や石器、及び火起こしセット等の考古資料を学校現場等に貸し出し、児童・生徒が実物の考古資料を観察し、実際に触れ、活用することで、歴史の理解を深めることを目的として実施した。

2022年度の実績は以下の通りである。

①出前支援事業

実施日	内容	学校名	人数
6月7日他	土器づくり	中央市立田富南小学校	75
6月9日	土器に触れる体験	甲斐市立羽黒小学校	64
6月13日	火起こし体験・土器に触れる体験	南部町立栄小学校	11
6月22日	勾玉づくり	山梨県立中央高等学校	51
6月28日	火起こし体験	甲斐市立竜王北小学校	73
7月4日	火起こし体験・土器に触れる体験	北杜市立高根東小学校	48
8月15日他	勾玉づくり	公益財団法人山梨Y M C A	46
9月13日	火起こし体験	南部町立富沢小学校	17
10月4日	勾玉づくり	北杜市立長坂小学校	86
11月30日他	土器づくり	山梨学院小学校	366
2月2日	勾玉づくり	山梨県立あけぼの支援学校高等部	11
3月28日	火起こし体験・土器に触れる体験	甲府市立相川小学校放課後児童クラブ	40

②考古資料貸し出し

貸し出し期間	貸し出した資料	学校名	人数
5月30日～31日	縄文土器・平安時代糞	山梨学院大学	14
7月29日～8月9日	火起こしセット	東八ひまわり学校	30
8月23日～30日	縄文土器	山梨県立韮崎高等学校	60
9月9日～12日	火起こしセット	めだかの学校ジュニア	15
9月30日～10月21日	土器・石器・金属器(復元)・勾玉(復元)	山梨県立うぐいすの杜学園	1
10月3日～28日	古代衣装(貫頭衣)	職台甲府小学校	31
12月8日～12日	火起こしセット	すみよし愛児園	15
3月9日～17日	火起こしセット	富士河口湖町立勝山中学校	23

2022年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が、昨年度に比べて緩和されたため、出前支援事業・考古資料貸し出しの件数が増加に転じた。

土器や勾玉を実際に作る、昔ながらの方法で火を起こしてみる、土器や石器等の本物の考古資料を児童・生徒が実際に手に取る、といった経験は児童・生徒はもとより教職員にも好評であった。また、当センター職員が実際に授業で説明する機会を持つことで、地域の歴史教育を支援する他、児童・生徒が地域への誇り・愛着を持つきっかけとなった。

4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等

4-1 史跡甲府城跡稻荷櫓常設展

会期：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）

会場：史跡甲府城跡 稲荷櫓

内容：甲府城跡の発掘調査成果や展示資料を紹介するパネル展示を増設した。石垣の築造に使われる石工道具の展示替えとともに新たな解説パネルの展示を行った。



史跡甲府城跡稻荷櫓展示のようす

4-2 鉄門常設展

会期：2022年4月9日（土）～通年

会場：史跡甲府城跡 鉄門

内容：史跡甲府城跡は、野面積石垣が良好な状態で残る国内でも有数の近世城郭として評価されている。例年、年度の初めに併せて甲府城鉄門及び稻荷櫓で甲府城の価値をテーマにした展示会を開催することで、県民の甲府城に対する正しい理解と興味、関心を高める機会としている。本年度は、令和4年度文化庁「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の一つとして、史跡甲府城跡鉄門にて展示を行った。

今回は2021年度に刊行した「やまなし城・居館めぐりのススメ～北杜・韮崎・甲斐・甲府編～」に関連させ、史跡甲府城跡の周辺から甲府城下町ルート、武田城下町ルート、湯村山城跡ルートを紹介し、楽しみながら文化財などを巡ってもらうことを目的とした。



展示作業風景



展示状況

4-3 遺跡調査発表会

開催日：第1回 2022年10月15日（土）

第2回 2023年3月11日（土）

参加人数：第1回30名・第2回33名

会場：第1回 帝京大学文化財研究所大ホール

第2回 風土記の丘研修センター

内容：2022年度以前に発掘調査をおこなった県内各地の遺跡とその価値について、調査担当者がパワーポイントや映像等を使いながら解説をした。

【第1回遺跡調査発表会】

発表遺跡1 塚越遺跡 (甲府市) 昭和測量株式会社 泉英樹

発表遺跡2 亀甲塚古墳 (笛吹市) 帝京大学文化財研究所 櫛原功一

発表遺跡3 池の頭遺跡 (西桂町) 西桂町教育委員会 奈良泰史

発表遺跡4 二又第一遺跡 (中央市) 山梨県埋蔵文化財センター 御山亮済

【第2回遺跡調査発表会】

発表遺跡1 史跡甲斐国分寺跡 (笛吹市) 笛吹市教育委員会 江草駿作

発表遺跡2 留の腰窓跡 (甲斐市) 甲斐市教育委員会 長谷川哲也

発表遺跡3 下向遺跡 (笛吹市) 山梨県埋蔵文化財センター 久保田健太郎

発表遺跡4 史跡武田氏館跡 (甲府市) 甲府市教育委員会 鷹野義朗

発表遺跡5 史跡新府城跡 (韮崎市) 韮崎市教育委員会 関間俊明

発表遺跡6 史跡甲府城跡 (甲府市) 山梨県埋蔵文化財センター 野代恵子

事業効果：最新の発掘調査成果を一般の方々に向けて発信することができる良好な機会であり、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史認識を深めてもらうとともに、文化財保護・活用への理解を高める機会となった。また、3月11日（土）～4月9日（日）にかけて開催した「知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展2023」の広報も同時におこない、発表遺跡の出土遺物や解説パネルを展示することで、さらなる理解や関心を高められるよう促した。



第1回遺跡調査発表会



第2回遺跡調査発表会

4-4 知ろう山梨の歴史!山梨の遺跡発掘展2023

日時：2023年3月11日（土）～4月9日（日）

参加人数：1,545名

会場：山梨県立考古博物館 多目的室

内容：2022年度以前に山梨県内で山梨県埋蔵文化財センター、市町村教育委員会及び民間団体により実施された発

掘調査の成果を一堂に集めた展示会である。写真パネルや出土遺物の展示により、調査成果を紹介した。同時に県埋蔵文化財センターが実施した普及活動の成果等も展示了。

①発掘調査：桃園遺跡（都留市：縄文）、塚越遺跡（甲府市：昭和測量株式会社：弥生）、新町前遺跡（山梨県：弥生～古墳、平安中世）、亀甲塚古墳（帝京大学文化財研究所：古墳）、池の頭遺跡（西桂町：平安）、小井川遺跡（山梨県：中世）、二又第1遺跡（山梨県：中世）、池田神明遺跡（山梨県：中世）、御陣屋遺跡（山梨県：中世～近代）、下向遺跡（山梨県：中世）、甲府城下町遺跡（甲府市：近世～近代）、蛭の腰窯跡（甲斐市：近世）、県内遺跡分布調査（山梨県）

②史跡整備：史跡甲斐国分寺跡（笛吹市：古代）、史跡武田氏館跡（甲府市：中世）、史跡新府城跡（韮崎市：中世）、史跡甲府城跡【内堀エリア】（山梨県：近世）、史跡甲府城跡【関連石切場跡詳細分布調査】（山梨県：近世～現代）、史跡甲府城跡石垣維持管理（山梨県）

③資料普及・活用事業（山梨県）：開催したイベントの紹介、刊行・制作物の配布



展示風景



展示を見る来場者

山の洲山梨・静岡・長野文化財交流事業（地方創生推進交付金事業）

1 出張展示・体験イベント

1-1 PR イベント（アピタ静岡店）

日時：2022年7月30日（土）、31日（日）

参加人数：829名

会場：アピタ静岡店

内容：山梨県・静岡県・長野県の特徴的な埋蔵文化財等を比較展示し、ワークショップ等により理解を促すことによって各県のもの歴史や地域への理解を深めるため、アピタ静岡店において出張展示を行った。山梨県埋蔵文化財センターでは縄文土器や黒曜石・水晶を展示し、来館者が土器や黒曜石に触れていただく体験コーナーも開いた。山梨県の縄文時代、静岡県の弥生時代を比較した縄文土器と弥生土器の展示や、ハンズオン体験、黒曜石の試し切り、銅鐸や琴を鳴らす等のワークショップを開催することで、それぞれの文化を紹介した。買い物の途中で立ち寄る方が多く、特にハンズオン体験では、縄文土器と弥生土器の重さを比較して驚いている来場者が多く見られた。



展示解説



石器の試し切り体験

1-2 ふじのくに文化財交流展（ワークショップ）

日時：2022年10月15日（土）・16日（日）

参加人数：62名

会場：静岡県立美術館 県民ギャラリー

内容：ふじのくに文化財交流事業の一環として、静岡県立美術館において開催する山の洲文化財交流展の会期中に縄文土器の文様付け体験や、縄文土器の文様を用いたしおり作り体験を行った。また、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のパネルを展示した。静岡県において山梨県の縄文文化の魅力を伝える良い機会となった。



イベントの様子



1-3 願いを込めて土偶を作ってみよう!

事業：日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」魅力発信
日時：2022年10月2日（日）、11月6日（日）

参加人数：203名
会場：山梨県立美術館

内容：縄文王国山梨実行委員会とともに県立美術館の特別展「縄文展」の会期に合わせ、土偶作りワークショップを実施した。土偶作りを通じて縄文人がどのような想いを込めたのかを考えていただいた。



イベントの様子

1-4 JOMON 講座やまなし

事業：日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」魅力発信
日時：2023年1月28日（土）

参加人数：56名
会場：やまなしプラザ

内容：写真家・小川忠博氏とフリーペーパー「縄文 ZINE」編集者・望月昭秀氏、小野正文氏、野代幸和氏に講師を依頼し、山梨県の縄文文化をテーマにしたトークイベントを行った。山梨県の土偶の特徴やその背景の社会について学ぶ良い機会となった。



イベントの様子

1-5 Jomon Cafe

事業：日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」魅力発信
日時：2023年3月21日（火）

対象・参加人数：167名
会場：やまなしプラザ 県民ひろば

内容：縄文文化を身近に感じ、興味・関心をもっていただく機会として、縄文土器の文様付け・拓本・ハンズオンを体験するイベントを開催した。参加者には、山梨県内で出土した縄文土器の文様をデザインに使用した「縄文土器文様和紙カップスリーブ」を配布した。



イベントの様子



縄文土器文様和紙カップスリーブ

整備事業に伴う調査

1 整備事業に伴う調査

1-1 史跡甲府城跡（内堀エリア）

所在地 甲府市丸の内一丁目地内

事業名 史跡甲府城跡整備事業

調査期間 2022年6月6日～10月27日、2023年1月10日～3月20日

調査面積 約800m²

担当者 野代恵子・中村有希・小池準一



位置図

①調査概要

甲府城跡はかつて内城を画する形で内堀がめぐらされていたが、現在は城南側の一部の水堀を残して他は埋め立てられている。このたび

内堀の史跡整備に先立ち、内堀の石垣とそれに接続するはばき石垣の遺存状態や、その構造等を把握する目的で調査を実施した。なお、2012・2013年度に実施した立会調査では、内堀東端の堀底立ち上がり切付近で木杭列が確認されており、2018～2021年度の試掘調査では内堀石垣の南出隅部やはばき石垣の一部などが確認されている。

今回は、これら過去の調査成果を踏まえて調査区を設定し調査を行ったところ、江戸時代中期の甲府城の様子を描いた『楽只堂年録』によるとおりに内堀西端の石垣が全体的に遺存していることが判明した。また、石垣根石下に敷かれた胴木などの石垣下部の構造についての新たな見知を得ることができた。

②内堀西端の石垣について

現状では地上に石垣が確認できない箇所についても、根石付近については全体的に遺存していることが判明した。石垣は野面積みであり使用している石材にはほとんど加工がみられないが、南出隅部角の根石には、はつりの痕跡が確認されている。また四寸矢穴のある築石も確認された。このほか築石の変位や間詰石の抜けといった変状が生じている箇所も確認されている。

根石下には胴木や基礎構造が良好に遺存していた。根石の下には胴木が敷かれ、その下に差し込む形で、胴木と直交する方向に約90cm間隔で横木が設置されていた。これらは石垣面に向かって傾斜して設置され、その下には襯が充填されている。特に横木と地面が接する箇所には平らな石や大きな石などが意図的に置かれていた様子が観察された。また、この横木は、確認できるものは全て石垣面側ににはぞ穴を穿ち、先端を鋭く加工した径7～9cmの縦杭を地面に打ち込むとともに、この縦杭頭を根石面に固定する方式がとられている。

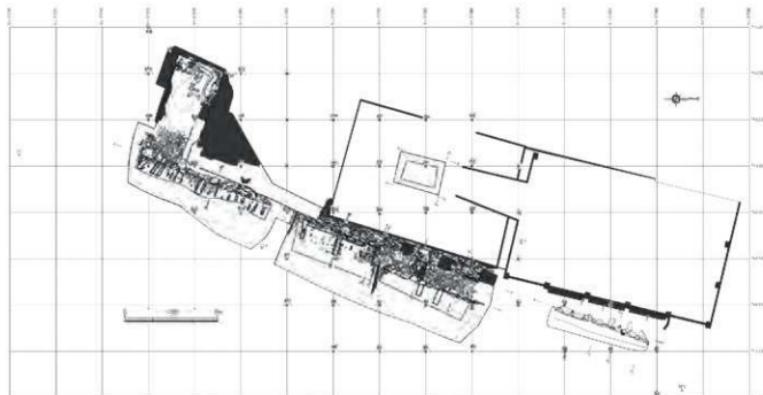
横木と横木の間には襯を詰めて固定しており、さらに横木の上には粘土で覆い固めるなど、丁寧で頑丈に仕上げられている。土層の状況からは、設置後にこれら構造全体が動いたような痕跡は見られず、加えて打ち込まれた縦杭にもゆるみがないことから、横木は当初から斜めに設置されたものと考えられる。このようにかなりの角度を付けて設置する方法は、これまでの甲府城跡の調査で確認されているものとは異なっている。なお、石垣の一部では、横木上に覆い固めた粘土がない箇所や、横木に打ち込まれた縦杭直上に根石が載ってしまっている箇所が見られるところから、ある段階で部分的に石垣根石からの積み直しが行われている可能性もある。

このほか、これら土台木の下にも地盤を安定させるための工夫が見られた。根石の下0.8～1mほどを掘り、その中に襯や築石大の石を入れるなどして地盤を改良していることがわかっている。このような施工方法は樂只堂年録の内堀石垣箇所でも確認されている。

③はばき石垣について

『楽只堂年録』によると、内堀ではこの箇所のみに小さな石垣を付け足したような構造が見られるが、調査の結果、この石垣がほぼ絵図どおりの位置・規模で残されていることが確認された。幅およそ2.2m、総延長は約20m、根石下からの残存高は最大で約1.6mである。また、一部にトレンチを入れ構造を確認したところ、本体である内堀西端の石垣に接する箇所には

30～40cm 大の石が置かれ、それ以外には拳大程度の裏栗石を詰めている構造であることがわかった。なお、はばき石垣の下には胴木及び地盤改良の痕跡は確認されていない。



史跡甲府城跡（内堀エリア）調査区全体図（右手が水堀側、上が県庁側）



内堀西端の石垣の遺存状況（南から）



内堀西端の石垣前に設置されたはばき石垣



横木の設置状況（画面奥が石垣面）



根石下の胴木と横木、横木間に詰められた礫

1-2 史跡甲府城跡石垣維持管理事業

所在地 甲府市丸の内一丁目地内

事業名 史跡甲府城跡石垣維持管理事業

実施期間 2022年6月29日～2023年3月31日

調査面積 約20,000m²

担当者 野代恵子・渡邊みづか・一之瀬はる奈

国指定史跡甲府城跡(都市公園舞鶴城公園)は、織豊期末期の文禄・慶長年間(1590年代)に築城が完成をみた城郭である。明治以降の鉄道敷設や市街地開発などによって、城郭の規模は縮小されたが、甲府城跡のなかでも歴史的・文化財的に最も評価される特徴とされる築城当時の野面積み石垣は、現在も城内の全域に良好に残っており、1968年には県指定史跡、2019年には国指定史跡となっている。

また、1985年ごろから舞鶴城公園整備計画が数ヶ年にわたって検討され、1990年から県土整備部と県教育委員会で、防災、復元、修景を目的とした石垣改修工事を中心に、歴史的建造物の復元・便益施設、園路、広場設備、城内建物の撤去などの整備事業を実施し、2004年度に完了した。

2005年度から2014年度にかけては、未改修石垣を対象として、公園利用者の安全確保や文化財保護の観点から、石垣の補修工事を実施してきた。石垣の補修工事は、現地調査によって石垣の傷み状況を記録し、補修方法を検討の上、詰石の締固め、交換、新規石材の補充を中心とした工事により、石垣の強度を維持させるものである。これは、改修工事と異なり、石垣を解体することなく安定化させる手法であり、オリジナル石垣を可能な限り旧状のまま後世に残す方法の一つとして期待されるものである。

2015年度からは、引き続き公園利用者の安全を確保するとともに、約400年前の貴重な文化財である甲府城跡の石垣を保護・活用し、あわせて、文化財石垣の保護と補修に欠かすことのできない伝統的な石工技術の継承・技術者の育成を目的とした維持管理事業へと移行することとなった。

今年度は、まず一次点検調査として甲府城内すべての石垣を対象とした石垣の変位状況の観測等を行った。外観目視は全石垣366箇所を1回、主要石垣233箇所は別途3回行った。計測器の計測は全157箇所を1回、過年度までに変動が確認された計測器など21箇所を3回行った。範囲を定めた石垣に対して石積技能者が近接目視及び打音検査を基本とする詳細点検を行い、変状箇所の位置や規模について確認し、記録した。

その後、二次点検として範囲を定めた石垣に対して石積技能者が近接目視及び打音検査を基本とする詳細点検を行い、変状箇所の位置や規模について確認し、記録した。点検箇所は天守台石垣(T-1～2、T-15～18地点)を対象とした。点検の結果、落石の可能性が認められた箇所にネットを設置する応急処置を実施した。

また、本事業を適切に実施するために、検討会議を3回(7月(対面会議)、10月(対面会議)、3月(書面会議))開催し、有識者からの指導・助言を得た。



位置図



点検の様子



検討会議の様子



石垣応急処置の様子

その他事業

1 その他事業

1-1 埋蔵文化財担当職員等研修会

(1) 研修プログラム見直しの背景

当センターでは、毎年、新採用職員や異動とともに新たな着任した職員（以下、两者を併せて「新任職員」という。）を対象として、文化財保護行政上の課題や法令、基準等、埋蔵文化財保護に関する考え方や方法について講習する「新任職員研修会」を実施してきた。また、主に県内の文化財保護担当者を対象として、埋蔵文化財の調査技術向上やその時々の社会情勢における課題の共有を目的とした「市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会」を実施してきた。これは、毎年特定のテーマの下に、外部講師を招聘して実施するものである。なお、ここ数年の実施テーマは表1のとおり。

表1 過去4年間の実施テーマ

実施年度	過去の実施テーマ
2022年度	人材派遣の制度と注意点
2021年度	新型コロナウイルス感染症の蔓延により中止
2020年度	土層観察の方法と実践から見た古環境の復元
2019年度	熊本地震 被災後一週間の激務とその予防

一方、近年、当センターで急速な世代交代が進む中で、埋蔵文化財の保護や活用にかかる技術や保護行政上の知識、経験を確実に継承していくことが課題となっていた。これに伴い、研修内容を再検討し、上記のような技術や知見の体系的な習得を目指した研修プログラムを再構築することが急務となつた。

(2) 研修の内容と対象

研修は、新任職員を対象として埋蔵文化財保護や活用にかかる基本的な制度や方法の習得を目的とする「埋蔵文化財センター新任職員等研修会」、より専門的な内容に特化した埋蔵文化財の保護や活用にかかる方法の習得を目的とする「市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会」、以上2つよりも発掘現場でのより実践的な技術の取得と向上を目的とした「実地研修」と「遺構検討会」によって構成した。

「埋蔵文化財センター新任職員等研修会」は当センターと山梨県観光文化部文化振興・文化財課埋蔵文化財担当の主任以上の職員が講師を担当した。内容は表2のとおりで、いずれも考え方や目指すべき方向性などの理念的な内容を座学により学ぶものとした。講座12は実地研修に位置づけ、甲府市中心市街地を歩きながら甲府城下町に関する文化財情報を捕捉するものである。対象は当センターと市町村埋蔵文化財担当の新任職員とした。

「市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会」は、発掘作業員の確保を目的としたシルバー人材センターからの人材派遣を当センターで試験的に導入したことを受け、人材派遣制度の仕組みと運用の注意点について外部講師からの講演や事例報告を中心に行なった。対象は埋蔵文化財センターと市町村埋蔵文化財担当の職員とした。

「実地研修」は、当センターと市町村埋蔵文化財担当職員のうち、着任して間もない専門職員や、非専門職員を対象とし、発掘調査に関する基本的な技能の修得を目的とした研修である。各種機材の使用方法や、図面の作成方法、表土掘削の注意点、地層の観察、遺構検出と掘削方法、安全管理等について、埋蔵文化財センターが調査中の発掘現場で実施した。原則、5日以上の参加とした。

「遺構検討会」は、埋蔵文化財調査技術の向上と情報交換を目的とした実地の研修で、当センターと市町村埋蔵文化財担当の専門職員を主な対象とした。発掘調査の中で、特に検討を要する状況や情報共有が望ましい状況が生じた場合に実施した。

(3) 実績

「埋蔵文化財センター新任職員等研修会」は2022年5月18日(水)～20日(金)に実施し、埋蔵文化財センター4人、市町村埋蔵文化財担当5人、合計9人が参加した。

「市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会」は2022年8月2日(火)に実施し、埋蔵文化財センター職員のほか、市町村埋蔵文化財担当11人が参加した。

「実地研修」は全21回実施し、埋蔵文化財センター職員のほか、市町村埋蔵文化財担当29人が参加した。

参考

表2 埋蔵文化財センター新任職員等研修会講座内容

	研修テーマ	担当
講座1	文化財保護行政の実務1：文化財保護の現状と課題	埋蔵文化財センター次長
講座2	文化財保護行政の実務2：法令と事務手続き①	文化振興・文化財課 担当
講座3	文化財保護行政の実務3：法令と事務手続き②	文化振興・文化財課 担当
講座4	文化財保護行政の実務4：埋蔵文化財の活用と史跡整備	埋蔵文化財センター史跡資料活用課長
講座5	埋蔵文化財の調査研究・保存活用の実務1：概要編	埋蔵文化財センター調査研究課長
講座6	埋蔵文化財の調査研究・保存活用の実務2：発掘調査編	埋蔵文化財センター調査研究課職員
講座7	埋蔵文化財の調査研究・保存活用の実務3：史跡整備編	埋蔵文化財センター史跡資料活用課職員
講座8	発掘調査の基礎1：埋蔵文化財の補足のための事前準備	埋蔵文化財センター調査研究課職員
講座9	発掘調査の基礎2：遺跡の発見から調査記録まで	埋蔵文化財センター調査研究課職員
講座10	発掘調査の基礎3：遺物の洗浄から発掘報告書の作成まで	埋蔵文化財センター調査研究課職員
講座11	発掘調査の基礎4：文化財情報の記録	埋蔵文化財センター調査研究課職員
講座12	実地見学	埋蔵文化財センター調査研究課職員



埋蔵文化財センター新任職員等研修



市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

1-2 発掘体験セミナー・遺跡見学会

開催日：通年

参加人数：602名

内容：今年度は、調査現場での普及活動として遺跡見学会を7件、発掘体験セミナーを1件実施した。発掘調査の成果をいち早く県民に伝えることができた。

実績

	実施日	開催内容	人数
1	7月3日	下向遺跡見学会	70
2	7月24日	新町前遺跡見学会	130
3	8月6日	二又第1遺跡見学会	84
4	8月18日	甲府城下町遺跡見学会	中止
5	8月21日	二又第1遺跡発掘体験セミナー	31
6	9月4日	二又第1遺跡見学会	47
7	9月17日	史跡甲府城跡（内堀エリア）見学会	103
8	12月4日	池田神明遺跡見学会	137

合計 8件602名



下向遺跡見学会



新町前遺跡見学会



二又第1遺跡発掘体験セミナー



池田神明遺跡見学会

1-3 「山梨の遺跡発掘展2022」巡回展

2022年3月12日(土)～4月10日(日)に開催した「山梨の遺跡発掘展2022」で展示した県内遺跡の調査成果のパネルを県内下に広く貸し出し、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めた。

- ①甲府市教育委員会：甲府市役所本庁舎1階市民活動室
日時：2022年10月28日(金)～11月1日(火)
参加人数：559名
- ②甲斐黄金村・湯之奥金山博物館1階エントランスホール
日時：2023年1月20日(金)～2月20日(月)
参加人数：616名



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館での展示

1-4 広報紙「埋文やまなし」・研究紀要・年報

- (1) 広報紙「埋文やまなし」第67号・第68号の刊行

第67号 特集 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」

平成30年度に日本遺産に認定された「星降る中部高地の縄文世界」の地域である山梨県は、まだ一般に認知されていない縄文土器や土偶などの遺物が数多くあり、その中で当センターが調査した成果を特集した。また、2022年3月には上の平遺跡が県指定史跡に認定されたこと、センターの発掘調査の速報を掲載した。

第68号

当センターが今年度行った調査や整備事業などを掲載した。当年度では中央市小井川遺跡や笛吹市池田神明遺跡といった中世の土器や烟の跡などが出土した遺跡や、御陣屋遺跡や甲府城下町の江戸時代以降の遺物が出土した遺跡、また史跡甲府城跡関連に伴う発掘調査を行ったため、それらの成果を紹介した。また、今年度もふじのくに文化財交流事業に伴う交流展や、史跡甲府城跡や史跡鏡子塚古墳などを活用したイベント、日本遺産に関連した縄文イベントの内容や様子を紹介した。

- (2) 研究紀要39・年報38の刊行

職員の研究論考等をまとめた研究紀要39と当センターの2021年度の事業をまとめた年報38を刊行した。

1-5 報告書リポジトリ

これまでに2022年度刊行分までの発掘調査報告書、年報、研究紀要、広報誌のPDFデータを(独)国立文化財機構奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧に登録してある。

今年度は、発掘調査報告書10件(山梨県内分布調査報告書(平成31年・令和元年度)他9件)、年報1件を登録した。来年度も隨時、登録していく。

1-6 埋蔵文化財センター・考古博物館岐北収蔵施設

当センターが発掘調査報告書刊行したのち、出土品は県立考古博物館の所管となるが、出土品等(以下、「収蔵資料」という。)を保管する岐北収蔵施設や、同所への収蔵資料の管理点検は当センターが実施している。

収蔵資料は、当センター開所以来の膨大な量であり、収納箱にして1万6千箱以上にのぼる。これらの収蔵資料及び資料を収蔵する施設の管理点検は、マニュアルや各種書式を作成し、以下の方法で実施している。

収蔵資料の点検①：年1回、全収蔵資料の1/5を対象として実施するもので、5年かけて全収蔵資料の点検を完了するもの。

収蔵資料の点検②：調査研究や展示等を目的に施設外に抽出した資料について、予定通り返却されているかを確認するもので、年4回、その間に返却予定となっている資料を対象に実施する。

収蔵施設の点検：収蔵施設の破損状況等について点検するもので、年4回実施する。

2022年度も計画通りに点検を実施した。

1-7 寄贈・購入図書

寄贈図書は、全国の自治体や埋蔵文化財法人等から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館等の企画展図録がある。全ての図書は「図書カード・図書検索」に登録管理し、効率的に検索できるシステムを構築している。2013年度からは、重複している図書などを峠北収蔵施設へ搬出、整理しているが、依然として閲覧・収蔵スペースの確保、整理が大きな課題となっている。

購入図書は、業務に必要な考古学や歴史の専門書・学術雑誌等を購入している。

今年度は、峠北収蔵施設に書架の増設・国土地理院の地図購入・考古学や歴史の専門書購入・寄贈図書の登録(2022年度登録を1,804冊、2023年4月6日時点で総数115,557冊の登録)を行った。

1-8 出張講座等

日時：通年

参加人数：375名

内容：県民が郷土の歴史に親しみ理解を深めるため、各種団体からの依頼を受け、各種イベント・講演会に職員を派遣し、その地域・テーマに沿った最新の埋蔵文化財成果の普及講座を行った。

実績

	実施日	依頼者	内容	派遣職員	人数
1	5月21日	山梨県立考古博物館	考古博物館考古学講座	佐賀桃子	81
2	6月15日	峡中地区社会教育の会	県政出張講座	小林健二	15
3	6月18日	山梨県立考古博物館	考古博物館考古学講座	岩永祐貴	70
4	9月22日	市川三郷町立市川南中学校	総合的な学習「町内巡り」	岩永祐貴・内田祥一	11
5	10月7日	北杜市立長坂小学校	県政出張講座	佐賀桃子	48
6	10月9日	山梨県立考古博物館	第39回特別展「甲斐の勇者」記念講演会	小林健二	68
7	10月31日	千塚地区青少年育成推進協議会	県指定史跡加牟那塚古墳体験学習会	渡邊みづか	57
8	3月4日	甲府市教育委員会	中道公民館講座	野代恵子・中村有希	25

合計8件375名

事業効果

本年度は8件375名に対し講演活動を実施した。

いずれも各地域・テーマに沿った題材について、最新の埋蔵文化財調査成果を座学だけでなく出土遺物等のハンズオンも取り入れわかりやすく説明し、地域の歴史教育を支援するほか、県民の地域への誇り・愛着を持つきっかけ作りの機会となった。



中道公民館での講座



県指定史跡加牟那塚古墳体験学習会

1-9 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

2021年度・2022年度、当センターは副会長職を担ってきた。今年度参加した役員会・会議等は以下のとおりである。

○第1回役員会・総会

6月9日(木)・10日(金)に沖縄県立埋蔵文化財センターを幹事機関として、ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城(那覇市)を会場に開催した。

○文化庁への要望活動

例年10月に実施してきたが、次年度予算に反映できるよう、2022年度から時期を早め、7月5日(火)に実施した。全国埋蔵文化財法人連絡協議会と共同で文化庁あてに要望書の提出と懇談を行った。要望活動は文化庁長官をはじめ対面で実施した。

○全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

11月1日(火)・2日(水)にホテルメトロポリタン長野(長野市)を会場に開催した。次年度以降、研修会を共同開催(相互乗り入れ)で実施するにあたり、役員機関として出席した。

○第2回役員会

11月22日(火)に会長職機関である鹿児島県立埋蔵文化財センターを幹事機関として、都道府県会館(東京都)で実施した。

○関東甲信越静ブロック会議

2月17日(金)に浜松市地域遺産センターを幹事機関として、アクトシティー浜松(浜松市)を会場に開催した。会議では、①新規採用職員の発掘調査技術の習得について(当センター照会事項)、②発掘調査での3D計測の導入事例と導入効果について、意見交換や質疑応答が行われた。また、第2回役員会の内容について、当センターから報告を行った。

1-10 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料、収蔵画像資料・掲載の許可、古代衣装の貸し出し、名義後援の一覧を78ページ～81ページに示す。

収蔵資料貸し出し一覧

収蔵画像資料の貸し出し・掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	申請目的	申請物件名
1	4月1日	UTV ケーブル山形	映像番組「スカム」に使用するため 企画書のマーク案内に使用するため	放送局出張丸山駅古墳 映像作品権利表示
2	4月1日	タブコーギル株式会社	『アルカ油井』224号に使用するため	映像作品権利表示
3	4月4日	山形県歴史文化財センター	『アルカ油井』224号に使用するため	映像作品権利表示
4	4月5日	株式会社 TBS スパークル	BS-TBS 「開口一番の~番号の古代史~」に使用するため	映像作品権利表示
5	5月9日	藏文ヨキド会	ウェブサイトへの掲載の為。リストを用いたグッズの作成のため	大人の洋服 上衣
6	5月11日	株式会社求道堂	『蔵文アートを楽しもう!』に掲載するため	蔵文アート 甲子年賀状 甲子年賀状 甲子年賀状 甲子年賀状 上りマフラー 蔵文アート 重ね着用用具 安永今治錦 萩原道長 海道直吉(通称) 天神道長 丸山山城 天神道長 大人の洋服 上着地図写真 1点
7	5月12日	株式会社マジンハウス	『アンデレアム』に掲載するため	天神道長 大人の洋服 上着地図写真
8	5月18日	山形県立美術専門学校	山形日新報「美術研究会」に掲載するため	蔵文アート
9	5月24日	個人	個人用「日本古文書研究会」に掲載するため	福島・大通跡 1点
10	5月24日	株式会社想思工房	朝日新聞社大阪版毎日新聞「書評リーズ相棒 3年目」に掲載するため	上着地図写真 1点
11	5月24日	NNN放送センター	「情報番組 ジョラブ」に使用するため	百人一首 1点
12	5月25日	北海道立総合文化センター	企画展「北東北・北東の蔵文書群展」の展示パネルを使用するため	安達寺道長 天神道長 1点
13	6月3日	福井県立こども歴史文化館	児童書「ひまわり (どく) ~新しい考古学のススメ~」の展示パネルを使用するため	天神道長 海道直吉(通称) 安達寺道長 1点
14	6月6日	株式会社マジンハウス	マジンハウス版「BIRUJIN 1966」に掲載するため	天神道長 安達寺道長 1点
15	6月11日	企画展「国宝・御物・御傳説	企画展「(にほんの古文書クイズ展)」展示物写真ショット	平半鏡(天守古壁) 空堀鏡(天守古壁) 1点
16	6月21日	株式会社平凡社	「日本創始の人猿田彦御祖・御父祖」の形象書「葦本で儀式!」行ってみたい! 見てみたい!見てみたい!」に掲載するため	平半鏡(天守古壁丸山駅古墳 空堀鏡(天守古壁) 1点
17	6月24日	株式会社かみゆ	JTB 国・文化・芸術	奈良道長 海道直吉(通称) 西行墨跡 1点
18	6月28日	株式会社ネットワット	株式会社三条件「ゆき入浴・祝年の世界」に掲載するため	天神道長 1点
19	7月7日	山形県立美術館	今朝4年度特別展「蔵文・JOMON」複合会場開幕式に掲載するため	一の羽根 西行墨跡 丸山道長 丸山山城 上の平野 重ね着用用具 海道直吉(通称) 上野前庭 足利義満(天守古壁) 平半鏡 官の前着地 安永今治錦 甲子年賀状 天神道長 大人の洋服 上着地図写真 1点
20	8月1日	静岡市スポーツ・文化振興部文化・文化課	「山の神文化財保護運動 富士山のむかむか祭の登場と蔵文古美術 藤岡晶司展」の展示パネル、チラシに掲載のため	百人一首 1点
21	8月1日	NNN放送センター	「NNN放送センター『情報番組 ジョラブ』」に使用するため	百人一首 1点
22	8月15日	UTV ナビ山形	映像番組「スカム」に使用するため	天守閣(天守古壁丸山駅古墳 空堀鏡(天守古壁) 1点
23	8月22日	東京川口ルーフ公園マジックメント	ティーンズ放送「3月記念特別番組」(日本TBS)歴史見聞・日本ワインの「天守閣」に掲載するため	映像作品権利表示 1点
24	8月26日	株式会社ガーネス	「JR山形から、放Twitterに掲載するため	天神道長 映像作品権利表示 1点
25	8月26日	山形県立美術館	今朝4年度特別展「蔵文・JOMON」複合会場開幕式に掲載するため	安達寺道長 天神道長 上の平野 安達寺道長 1点
26	8月27日	個人	研究論文に使用するため	天神道長 映像作品権利表示 1点
27	9月3日	福井県立美術館	天守閣(天守古壁)「天守閣」に掲載するため	天守閣 映像作品権利表示 1点
28	9月5日	山形県立美術館	今朝4年度特別展「蔵文・JOMON」複合会場開幕式に掲載するため	大人の洋服 各着地 1点
29	9月7日	株式会社リサイクル30	日本テレビ「THE ART HOUSE」に掲載するため	大人の洋服 西行墨跡 1点
30	9月11日	株式会社 ABC テーク	『歴史人』11月号に掲載するため	中元道長 映像作品権利表示 1点
31	9月12日	株式会社小今船	『小今船の鑑賞 NEO 7』『絶版 はじめての絵画』両載するた	萩原道長 1点
32	9月14日	山形県立美術専門学校	甲府商工会議所の中央会議場和装講堂企画室のプレゼン資料に掲載するため	大人の洋服 上の平野 映像作品権利表示 1点
33	9月14日	福井県立こども歴史文化館	特別展「DOKI (土器)~新しい考古学のススメ~」の展示パネル使用のため	安永今治錦 1点
34	9月14日	福井県立こども歴史文化館	特別展「DOKI (土器)~新しい考古学のススメ~」の展示パネル使用のため	大人の洋服 金の尾墨 1点
35	9月21日	柏青哥株式会社	『土偶大辞典』掲載するため	大人の洋服 萩原道長 安永今治錦 1点

古代衣装貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	6.11 ~ 6.25	富士川町立無訣小学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 崩服 巫女服 女官服 官吏服
2	7.16 ~ 7.30	甲州市立玉宮小学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 崩服 巫女服 女官服
3	7.25 ~ 8.24	近畿大学付属新宮高校中学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 崩服 巫女服 女官服 官吏服
4	9.21 ~ 9.30	山梨県立わかば支援学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 崩服 巫女服 女官服 官吏服 綺文服
5	9.30 ~ 10.28	特別支援学校うぐいすの森学園	学習教材として使用のため	崩服 巫女服 女官服
6	10.3 ~ 10.28	私立駒台甲府小学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 4着
7	10.8 ~ 11.6	東京都八王子首学校	学習教材として使用のため	崩服 巫女服 女官服 官吏服
8	11.10 ~ 12.9	山梨県立やまびこ支援学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 崩服 巫女服 女官服 官吏服
9	11.23 ~ 12.8	山梨県立ふじざくら支援学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 巫女服 女官服 官吏服
10	令和5年1.18 ~ 2.3	山梨県立あいぼの支援学校	学習教材として使用のため	貴賤衣 3着

第Ⅲ章 県内の概況

1 届出件数と内容

2022年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条:3(9)件、法93条:216(194)件、法94条:28(42)件、法96条:1(0)件、法97条:0(0)件、法98条:0(0)件、法99条:261(290)件である。届出の総件数は509(535)件である。前年度と比較すると、公共事業のうち、開発の事前に発掘調査を要するものについて、増加傾向が認められる。また、法99条により周知の埋蔵文化財包蔵地外において発掘調査を実施した地点から、新たに12箇所の遺跡が発見され、2つの遺跡で範囲の拡大が図られた。※()内数字は前年度。

なお、当県では2007年度より、文化財保護法施行令第5条に基づき県文化財保護部局が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限について、一部譲渡を行っている。これにより、埋蔵文化財専門職員が設置されている市町については、工事立会・慎重工事などの軽微な指示・勧告を行うことができるようになっている。そのため、ここに報告する2021年度における法第93条・94条の届出数は、県の権限に基づく指示・勧告の件数と同義であることを補足しておく。(都留市教育委員会については、権限の一部譲渡をしているものの、2022年度については、協議の結果、工事立会・慎重工事の指示を要する4件の届出を県で処理している。)

2 発掘調査

2022年度に実施された県内の発掘調査件数は、264(304)件(発掘調査学術調査等含む)となっている。その内訳は、県による調査が36(58)件、市町村教委による調査が225(239)件、民間調査組織による調査が3(7)件である。発掘調査の原因は、道路17(25)件、鉄道17(38)件、河川2(4)件、ダム0(1)件、学校建設0(2)件、集合住宅10(9)件、個人住宅71(84)件、工場3(1)件、店舗9(7)件、個人住宅兼工場又は店舗4(2)件、その他建物31(17)件、宅地造成40(39)件、土地区画整理0(0)件、公園造成0(3)件、ガス・電気・電話・水道0(10)件、農業基盤整備事業17(13)件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業0(3)件、土砂採取0(0)件、その他開発32(36)件、自然崩壊0(0)件といった緊急調査と、学術調査1(1)件、保存目的の範囲確認2(8)件、遺跡整備0(1)件があった。緊急調査では、リニア中央新幹線建設工事に伴って、試掘調査・発掘調査が進められている。個人住宅の試掘確認調査・発掘調査については、若干の減少がみられている。

※()内数字は前年度。

3 県・国指定有形文化財(考古資料)及び県・国指定史跡

2022年度は、県指定史跡として、中央市大鳥居に所在する「王塚古墳」が2023年3月16日に指定された。帆立貝形の古墳で、石室は県内唯一の合掌形石室と推測されている。出土品には、5世紀後半の武器等があり、被葬者が大和政権と強い結びつきがあると考えられることなどが評価された。令和5年3月31日現在、山梨県内の県指定有形文化財(考古資料)は46件、県指定史跡は29件、国重要文化財(考古資料)は6件、国指定史跡は16件である。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

2022年度に実施された264件のうち、多くは、記録保存を目的とした開発事業に伴う緊急調査であるが、それぞれ地域にとって重要な成果が報告されている。笛吹市では、リニア中央新幹線建設工事に伴い、県が新たに発見した下向遺跡の発掘調査を実施しており、平安時代の遺物が発見された。また、平坦な土地を造成するための切土と盛土及びこれらの崩落を防ぐための石垣が発見された。甲斐市は、農道拡幅に伴う畠の腰窓跡の発掘調査を実施した。少なくとも3期の操業面が見つかっている。中央市では、大鳥居宇山平遺跡において、古墳時代前期の前方後方墳が発見された。県では同市高島地区の二又第1遺跡・第2遺跡の調査を継続的に実施しており、中世以降の集落跡・水田跡などが見つかっている。西桂町では池の頭遺跡の調査が行われ、平安時代の住居跡等が記録保存されている。市川三郷町では、県が平成30年から継続して調査をしている新町前遺跡から、これまで確認されていなかった古墳時代と弥生時代の集落跡が発見された。

このほかに、保存範囲・内容確認を目的とした発掘調査が5件ある。甲府城跡では、内堀の腰石垣にあたる部分について、整備を目的とした調査が行われた。武田氏館跡では、味噌曲輪に位置する馬出を発掘調査し、複数回にわたって改修されていたことがわかった。韮崎市では、新府城跡の本丸で調査が実施され、本丸内の石築地の様相の一部が把握された。笛吹市甲斐国分寺跡からは、南回廊跡とされる礎石が見つかった。南アルプス市では、御勤使川旧堤防(将棋頭・石積出)石積出三番堤の調査が実施された。

5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では文化振興・文化財課4名、埋蔵文化財センター22名（うち教員派遣交流3名、会計年度任用職員5名）、博物館2名、考古博物館5名である。市町村では、甲府市9名、富士吉田市2名、山梨市1名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市5名、北杜市4名、甲斐市4名、笛吹市5名、上野原市1名、甲州市2名、中央市2名、身延町1名、富士河口湖町2名、それ以外の市町村は0名、となっている。

近年、専門職員の新規採用など埋蔵文化財担当者が増員される事例もみられるが、現状の埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち14市町村で約52%であり、2009年度の約63%（27市町村のうち17市町村）以降減少傾向にある。文化財保護法の改正に伴い、文化財を活かしたまちづくりを推進する市町村がある一方、文化財専門職員の未配置となっている自治体では、文化財行政に支障をきたす事例も発生している。また、いくつかの自治体では、職員の定年退職に伴い、欠員補充として新規に職員を採用したことにより、経験や実績の浅い若手職員の割合が増加傾向にある。このように、埋蔵文化財行政を取り巻く環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置やその育成は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・研究・活用し、歴史を活かした地域づくりに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

2021年度の埋蔵文化財発掘調査件数・事務処理件数（市町村ごと）

	甲府市	富士吉田市	都留市	山梨市	大月市	韮崎市	北杜市	甲斐市	南アルプス市	上野原市	甲州市	中央市	市川町	早川町	身延町	南都留町	富士吉田市	忍野村	西鎌村	南牧村	山中湖村	御殿村	小淵沢	丹波山村	2020-21年度 実績	2020-21年度 目標		
発掘本調査数	7	0	1	1	0	4	2	5	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	28		
包蔵地内での試掘確認調査	37	0	3	9	1	41	11	49	20	6	0	6	5	1	0	0	1	2	0	0	6	0	1	0	1	0	200	194
包蔵地外での試掘調査	1	2	0	4	1	0	6	10	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	31	41	
93条届出数	156	13	14	69	4	60	131	62	82	138	3	41	13	0	0	0	2	1	3	0	4	1	0	0	2	0	799	787
94条届出数	24	0	6	9	6	10	3	0	10	9	1	4	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	88	80

*県が実施した調査数は除く

文化庁文化財第二課2023「埋蔵文化財関係統計資料—令和4年度—」掲載用の基礎資料より

令和4年度 新たに埋蔵文化財包蔵地とされた遺跡



左から大津天神堂遺跡・入田遺跡・大津横田遺跡（甲府市大津町）



西下条五割遺跡（甲府市西下条町）



縫縫穴（富士吉田市上吉田東）



羽中田遺跡（足柄市旭町上條南割）



海道場遺跡（南アルプス市古市場）



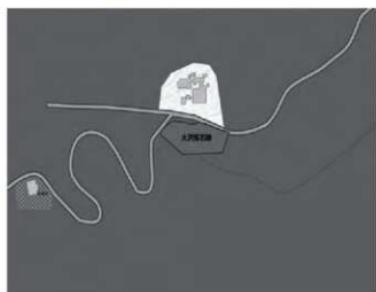
塙場石跡（北杜市武川町柳澤）



神明遺跡(笛吹市石和町・小石和)



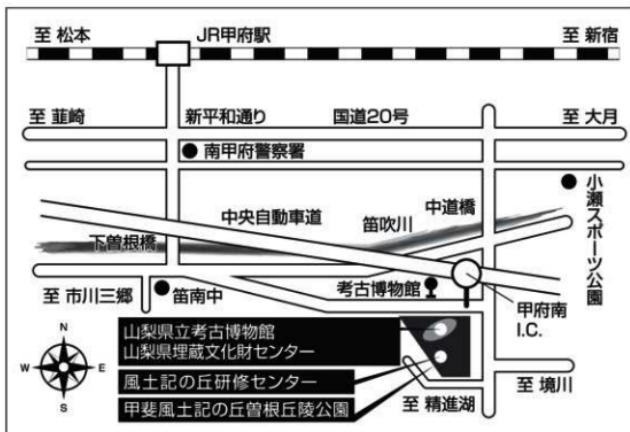
池田神明遺跡(笛吹市石和町唐柏・小石和)



大沢採石跡(南巨摩郡身延町下山)



戸川堤防遺跡(南巨摩郡富士川町最勝寺)



●路線バスご利用

甲府—豊富(中道橋経由)「考古博物館」で下車

●高速バスのご利用(2時間)

バスタ新宿……甲府南回り、甲府行「中道」下車・徒歩5分

甲府南インターバス・徒歩10分

年 報 39

印刷日 2023年 11月 14日

発行日 2023年 11月 17日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

FAX 055-266-3882

E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 青柳印刷株式会社

山梨県甲斐市長塚526

TEL 055-277-5511
